

一向過渡期世界論の防衛と発展のために(3)

||情勢分析 1974.5~

東拘のアウシュヴィツ政策の開始、"自殺房"政策を粉碎しよう！ 1974.4
岩越氏の7.15HJ闘争を断乎支持する！ 1974.4

目

次

七〇年代中期国際情勢の基本的動向と世界革命の展望

△1▽戦後国際帝国主義体制の瓦解と世界革命戦争 の対峙段階	2
△2▽米ソ超大固体制の現出とニクソン＝キッシン ジャー侵略、世界プロレタリア革命勢力の反 帝反社帝戦略への再編成の根拠	4
△3▽ニクソン＝キッシンジャー戦略の破綻の必然 性と民族解放・社会主義	6
△4▽中国共産党と批林批孔鬭争	6
△5▽中進国危機とパレスチナアラブ革命	7
△6▽現代帝国主義の危機と、世界・各国革命戦争 の成熟	9
△7▽社会帝国主義ソ連の運命	12
△補論▽中国「社会主義下『階級』鬭争」路線の擁 護の為に——トロッキズム社会主義論の敗北 性を批判す	17
△結論	21
△1▽日本帝国主義の階級危機の特質	24
△2▽プロレタリア日本革命の国際的、国内的性格	25
△3▽プロレタリア日本革命に於ける階級配置	27
△4▽プロレタリア日本革命の綱領とその諸問題 1 究極的な最大限綱領・一国社会主義プロ独 の中間綱領・最小限綱領の三層構造の綱領 の必要性	28
2 世界共産主義 世界社会主義・世界プロ ー 究極的な最大限綱領	28
3 一国社会主義・一国プロレタリア独裁 中間段階の綱領	29
4 日本プロレタリア独裁政府の第一段階の政 策綱領	30
5 我々の当面の闘い（—最小限綱領）	39
6 プロレタリア日本・世界革命の基本スロー ガンとその説明	32

プロレタリア日本革命の性格・その基本問題と我々の綱領

革命戦争の対峙段階の到達

七一年にその頂点をみた、インド支那三国人民を最先进する全世界人民の斗いは、米帝を支柱とする、帝国主義世界体制を根底的瓦壊に追い込んだ。そして、これは、今少し巨視的にみれば、ロシア革命以降開始された、プロレタリア共産主義世界の、世界プロレタリア独裁運動としての世界革命戦争が、一方では、スターリン主義へと三〇年代変質してゆきつつも、主要には、民族解放・社会主義革命の大奔流となって受け継がれ、中国・朝鮮・ベトナム革命を中心に、第二次大戦後も更に発展し、遂に、世界革命戦争の防禦段階を突破し、主導的な世界革命戦争の総反攻につらなる対峙段階が切り拓かれたことを意味する。

第二次世界大戦は、帝国主義戦争が主要な側面であるが、最初は、ロシア革命を機軸とする二〇年代後半に到るまでの、ソ連コミニテルンの世界革命戦争の展開に対する、国际帝国主義の側からの、独を最先鋒とする国际反革命戦争の側面も有していた。が、二〇年代～三〇年代の世界革命の挫折を経、また、帝国主義間の諸矛盾を、激戦を通して、この側面が減退し、「連合国」対「同盟国」の帝国主義間戦争に転化していくのである。そして、スターリン・コミニテルン勢力は変質し、この帝国主義間戦争に、逆に包摶される中で自己の存立を維持しようとした。しかし、この反動的な反ファシズム

つ、自立・侵略の道を歩むことを強制された。かかる米帝の国際蓄積構造の上に、第三世界人民を全く無視・犠牲にして、他帝国主義に不利益な、IMF・ガット体制が構築され、また、第三世界の民族解放・社会主義の斗いを最前線とする世界革命の昂まりを圧殺し、旧植民地体制を新植民地体制に再編・包摶し、その指導部中国を封じ込め、更に、欧革命を封殺し、ソ連を冷戦で包囲し、スターリン主義の社会帝国主義としての完成たる、ブルシチヨフ平和共存戦略を引き出すべく、国际反革命体制が構築されていったのです。そして、ソ連は、ますます国际帝国主義体制の救済者・補完物に転落し、他方、中国は第三世界の一員として、民族解放・社会主義の指導部として、頑強に斗い続け、他面では、現代修正主義＝社帝のソ連に対し「中ソ論争」を開いていった。

かかる、基本的には、第三世界人民の犠牲の上に主要に成立する、米帝を中心とする、戦後一〇年間の世界体制は、その体制の要の位置を占める反革命・植民地体制を、ベトナム人民を始めとするインドシナ三国人民、そして、これを支援する途上国・資本主義国・労働者国家の人民がつき崩し、米帝を中心とする国际反革命軍を敗退させた。このことによつて、帝国主義世界体制を未曾有の危機にたたき込んだのです。つまり、第一に、米帝を支柱とする国际帝国主義は、その寄生性の存立源泉たる植民地体制を維持し得なくなり、民族解放・社会主義革命の勝利の不可避性が、ますますはつきり

ショーピー人民戦線の世界戦略の枠内に置かれながら、これから独立し、これを越える勢力として、毛沢東に指導された中国共产党を中心とする、マルクス・レーニン主義のプロレタリアートの指導権の下での、民族解放・社会主義革命の一大潮流が生み出されていったのです。この意味で、第二次世界大戦は、反帝反植民地・民族解放革命戦争の侧面も有していたのです。そして、この斗いを一つの中心にしつつ、帝国主義戦争の終了過程で、再び、世界革命の一大昂揚期が形成された。

かかる事態に対して、この大戦の中で、超一流帝国主義に成長し、全地球市場の大半を再分割し、世界の経済・軍事の盟主として君臨し始めた米帝国主義は、帝国主義戦争終息過程で、拡大しつつあるアジア・ヨーロッパ革命に対して、この圧殺をばかり、この指導部たるソ連共产党の更なる変質と、中国共产党の変質を促進せんとした。

米帝は、第二次大戦過程を経て、米大陸のみの植民地支配に飽き足らず、アジア・アフリカの新旧の植民地支配を、欧帝と分割、交替しつつ実現し、第三世界人民から超過利潤の搾取と収奪を、最大の源泉にした、圧倒的な資本の集中・集積を誇り、国际独占体を実現し、そこから生じた過剰資本を、欧・日本市場に投下することをもつて、他帝国主義の経済的・金融的支配を強める、国际的・立体的蓄積構造を確立した。このような中で、欧帝や日帝は、この米帝戦略を受け入れつてきしたこと。

第二に、途上国の反革命・植民地支配を横杆・源泉にしつつ、他帝国主義や諸反動勢力に経済的・政治的統制力を保持していった構造が、これをもつて著しく減退し、欧帝や日帝の経済的・政治的独立性が増大し、不均等発展の矛盾が激化し、また、新植民地体制に組み込まれた途上国の「原料資源国」との軋轍が増し、帝国主義や諸反動勢力相互の矛盾が激化してきたこと。

第三に、戦後世界体制の護持という点で、共通の利益をもつた同盟者たる、社会帝国主義＝ソ連への優位性が、相対的に減退したこと。

つまり、第四に、米帝の後退を補填するかたちでソ修が侵涉し、民族解放・社会主義革命を抑圧し、社会帝国主義の新しい型の新植民地主義を展開し始めたこと。そして、これは、中国の述べる「米ソ二大超大国の世界の分割支配」という構造が現出し始めていること。

以上の、政治的・軍事的不利にもかかわらず、米帝の巨大な過剰生産力、過剰資本は、また、米帝と並んで、同じく過剰資本・生産力を抱える欧帝や日帝は、发展途上国を自らの蓄積・再生産構造に組み入れた、強蓄積構造をぬきにしては存在しない、根本的矛盾に逢着し、閉塞状態を現出させたこと。

キッシンジャー侵略、世界プロレタリア革命勢力の反帝反社帝戦略への再編成の根拠

かかる国際階級勢力の相互関係を、もっと詳しく分析するならば以下です。

戦後国際体制は、米帝に代表されるブルジョアジーが、フルシチョフ平和共存戦略を引き出し、これを利用しつつ、世界革命の最前線たる民族解放・社会主義の勢力と、その指導部中国を封じ込めたこと。ソ連は、米帝に世界体制を防衛せんとする限りで協力し、民族解放斗争と中国には、米帝の力を弱める限りではこれを利用し、援助してきた。民族解放勢力と中国は、ソ連修正主義とは依拠する基盤も世界観も相違していたが、二つの敵を一挙に相手にする力量はさらになく、また、当面の最大の敵たる、米帝等の植民地体制の打破に主要な攻撃対象を絞らざるを得ず、その目的に向けてソ修と妥協し、利用せざるを得なかつた。しかし、民族解放・社会主義の指導部中国とソ連との路線争いは、五〇年代より激化せざるを得なかつた。

かかる構造と関係をもつて、民族解放・社会主義革命の斗いが前進し、戦後米帝体制を瓦壊させるまでに前進していく。だが、この段階で、五〇年代の平和共存世界戦略の中で、すつかり社会帝国主義に変質し、米帝に次ぐ圧倒的な過剰生

と中ソの関係を利用しながら、米帝がニクソン＝キッシンジャー戦略のペテン政治を展開し始めたわけです。つまり、二面戦線の限界性につけ込み、中国をブルジョア国際政治と帝国主義経済世界に引き入れて、変質させ、あわせて民族解放・社会主義革命を変質させんとしたわけです。

以上、戦後米帝一元体制は崩壊し、これが、ソ修が米帝の後退を補填するかたちで侵出し、米ソ二大超大国の霸権支配へと再編され、民族解放・社会主義と中国を始めとする世界プロレタリア革命勢力は、米ソ超大国体制との全面対決へと、その斗争関係を改変し、構造化していくた。

米帝等、国際帝国主義は、この構造的敗退に対して、懸命な巻き返しをはかつてきました。それが、ニクソン＝キッシンジヤー戦略と呼ばれるものです。

その最大の特徴は、反革命軍事力を強化し、チリ反革命クーデターや第四次中東戦争の挑発を行なつて、国際反革命の常套政治を堅持しつつも、その一方で、自己の後退した力関係を一定程度認めた上で、民族解放・社会主義革命の斗いの波を、反革命軍事体制を再編強化・堅持しつつも、自らの過剰資本の処理という資本の要求を基底に置きつつ、また、原燃料・資源問題の解決を念頭において、和平劇を利用しつつ、労働者国家まで巻き込んで、「援助」と「経済開発」の名の下に、新々植民地主義の、資本主義の軌道の中に引き入れんとする包括的戦略であるということです。この限りで、旧植

産力を抱えたソ連修正主義は、米帝の下で維持されていた植民地体制を、新たに自己の霸権の下に再編成し、侵略せんと策謀したが故に、民族解放革命を起爆力にした世界革命の爆発には狂氣の如く反対し、狂氣の如くこの革命を抑圧せんとした。最早、ソ修にとつては、民族解放斗争は、米帝の駆逐の役割を終え、自らと敵対する勢いを示し出したが故に、利用価値がなくなつてきたからです。ロンノル政権支持、アラブ・パレスチナの「戦争でも、平和でもない状態の維持」、インド支持と中国包囲戦略等をみよ。

かくて、民族解放革命勢力は、米帝を決定的危機に追い込んだが、過去、力量を貯える為に妥協し、自らが利用してきたソ修との対決を迫られ、反米反帝斗争と同時に反社会帝国主義斗争の、二つの戦線の形成を要求してきた。とりわけ、社会帝国主義ソ連に対する、非和解的斗争関係にたつことによつて、これの打倒抜きには、新たな高い段階の前進を獲得することはできなくなつた。そして、この問題は、民族解放・社会主義の最高指導勢力たる中共に最初に煮つまらざるを得ず、中国は一時的に帝国主義と妥協し、反帝反社帝の世界戦略をより一層強く押し出していったのです。ソ修は、この中国の動向に対し、国境線に大規模な軍隊を結集させ、中国包囲のペテンのアジア集団安全保障条約なる、マヤカンの外交を展開してきたのです。かくて、民族解放・社会主義・中国とソ連社帝との緊張関係が激化し、この複雑な国際階級関係・戦略をより一層強く押し出していったのです。ソ修は、この第三は、極度に矛盾を抱えながらも、資本主義の発達をみている、第三世界の中進国、乃至は中進国に接近しつつある、インドネシア、エジプト、アルジェリア、アラブ諸国、ブラジル、アルゼンチン、中南米諸国を中心になしながら、この諸国の一定の資本主義と資本主義市場の発展を促進し（自己の再生産の安定した下層構造に組み入れ、自己の過剰資本の処理、原料・労働力の獲保を充すものとして）、あわせてこれらの国よりも、より経済的発展の低い諸国模範をつく等のプランを策動していくこと。

例え、最近の中東和平と、ミニア「パレスチナ国家案」の

提起による、アラブ革命勢力の孤立化、エジプトの米化を機軸とするアラブ勢力関係の再編成、或いは、中南米憲章の提起、等をみよ。

△△△ニクソン＝キッシンジャー戦略の破綻

の必然性と民族解放。社会主義

だが、このようなニクソン＝キッシンジャー戦略が、全くの白昼夢でしかないことは明らかです。

第一に、ベトナム等インドシナ三国人民は、和平劇のペテンにだまされて、武装を解除しただろうか？ 全く否である。

インドシナ三国人民は、和平交渉を最大限、主導的に利用しつつ、不屈に、更なる民族解放・社会主義革命の斗いを継続している。また、これにパレスチナ・アラブ人民が続き、ポルトガル植民地主義に抗した、ギニア・ビザウ、アンゴラ、モザンビーク等の人民が続き、三大陸の民族解放武装勢力が続いている。

現在の農業植民地国（封建的生産関係を主とする）の矛盾は、國際帝国主義の下層構造に組み入れられて、資本主義発展の道をはからうとしても、それすらはかれないこと。國際帝国主義に従属した地主・資本家の支配の下に、労働者・農民の矛盾は、激化するばかりで、矛盾の拡大再生産以外に何も結果しない。

この矛盾の根底的解決は、封建的生産関係を廃絶し、プロ

化・拡大に力を注がなければならなかつたこと。中国共産党は、この世界革命戦争の持久的対峙戦の主導的貫徹を、「天下大動乱の時」「山雨きたらんと欲して、風廊に満つ」情勢と評し、これに対し、「批林批孔」の一大思想運動を組織し、プロレタリア國際主義の大後方化路線・プロ文革の防衛・反社帝の防修の、継続革命をおし進め、ゆっくりと左へ旋回を開始している。

批林批孔斗争とは、直接には林彪の左翼日和見主義の、極右思想の批判を契機としているが、主要な側面は、反修・防修の資本主義の復活を防ぎ、共産主義に前進することを眼目とし、数千年にわたつて被抑圧階級人民を毒し、抑圧し続けてきた、支配階級の思想・世界観たる、「己れに克ちて、礼に復る」や女性蔑視の反動綱領に代表される、「孔孟の道」を全面的に批判。暴露することによつて、また、これとの比較関係の中で、MLI主義・毛思想を正しく理解し、プロレタリア人民を覺醒せしめ、階級的思想・理論武装を強め、階級敵を見破り、摘発していくとするものです。これは、なみなみならぬ、プロレタリア共産主義世界革命への、革命中国八億人民の決意を示す、偉大な斗いです。

以上からして、帝国主義や反スタ・トロツキストの「中国革命の変質」「新平和共存」とかいふた、反動的観測は全くあたらぬわけです。

また、朝鮮労働党は、朝鮮南部の革命的危機の成熟からの、

レタリア・人民による、全面的な土地革命を成功させ、かつ、生産手段を共有化し、工業を興し、大規模共同農業を興し、この相互均衡の相互作用の中で拡大再生産し、この自力更生の下に、他の諸国との世界社会主义をめざす、有無相通ずる互恵の国際経済路線を確立する社会主義をめざした、共同経済体制を築くことによってのみ救済される。このような、中國人民が勝利的に前進している道を、これらの諸国の人民は確固として邁進しているのであり、資本主義の軌道に引き入れるなんて、全くの幻想にすぎない。

△△△中国共産党と批林批孔斗争

中国はユーロの道を跡つてゐるだろうか？ 全く否である。

ニクソン訪中、中国人民外交の展開に表明され、十全大会で確認された路線は、國際プロレタリアート革命勢力は世界革命戦争の防禦段階から対峙段階への、決定的に優位な段階を切り拓いたが、これにひきついで、一挙に國際帝国主義を攻略し切る程には、客観的な資本主義の危機が完全には成熟していないこと、とりわけ、先進国に於ける革命勢力とプロレタリア党建設の斗いが前進し切れてないこと、とりわけ米帝の後退を補填する形で侵蝕する、社会帝国主義ソ連への斗いが不十分であること、總じて、反帝反社帝の全世界的武装勢力が成熟してない。従つて、獲得した力関係を打固めつつ、総反攻に向けて、反帝反社帝の国際的・国内的革命勢力の強

労働者人民の反米反日反朴の革命的決起に対し、これを全面的支持・支援し、世界革命・継続革命・朝鮮南部の解放に向けて、確固たる斗いを展開しています。

ニクソン＝キッシンジャーや日本ブルジョアジーどもの「中国のチトー化」等は、まさに白昼夢に過ぎないのです。

また、ニクソン＝キッシンジャーの、一定の路線修正に規定されて、旧来の反共国家が存立できなくなり、いちはやく、中国周辺の反共諸國家、タイ・タノム＝プラバートや朝鮮南部・朴に政治危機が招來し、同様に危機が台湾、ビルマ、マレーシア、フィリピンにも潜在していることを我々はみておくべきです。

△△△中進国危機とパレスチナ＝アラブ革命

先進国の強蓄積の犠牲を受けてゐるのは、最も後進的な農業・植民地国のみに限らず、いわゆる、第二次世界大戦を前後して、民族解放・社会主義革命のありを受けながら、小ブル急進民族主義（一面では、民族ブルジョアジーや農民、或いは、労働者までも包含し、革命的な侧面も持つが、全体的な視野。歴史觀がなく、極端に労働者と反動的階級の間を浮動し、プロレタリア・ヘゲモニーでもつて、断呼たる土地革命を断行し、社会主義革命に連続させる路線を持ち得てない－スカルノ、ナセル、ルムンバ、現在ではカダフィ等）で形式的に独立を得たり、或いは、小ブル急進民族主義の挫

折の後で、ブルジョア民族主義によつて指導される、後中進

国においてすら、新植民地主義の矛盾が成熟してきてる。

これらの国で、一定の経済的解放を求めて、民族解放斗争や援助と経済開発に協力するかたで経済侵略をはかり、これらの諸国の資本主義の発展を促進する中で、自国の市場に組み入れんとする、新たな新植民地主義の試みをはかるが、それは部分的な資本主義の発展によつて、一部資本家・地主・軍部・官僚等々を肥え太らせ、他面で、その矛盾を一身に受ける労働者階級を大規模に誕生させることによつて、階級対階級の勢力を強めた、より労働者階級の比重の高くなつた、

民族民主主義革命とその社会主義革命への転化の連続的発展の基礎を強め、他方では、先進資本主義国の再生産の最下部構造を担つてゐることにおいて、先進国プロレタリア人民の社会主義革命との結合を深めさせ、その連続斗争に、国際的性格を付与し、世界革命戦争の一環たる位置を与えるを得なくなる。

このような、新たなニクソン＝キッシンジャーの新植民地戦略の一環として、パレスチナ・アラブ政策が、石油資源獲保とからんで、急速に登場してきつある。第四次中東戦争は、まだ五〇年代・六〇年代の米帝の中東戦略たる、シオニズム・イスラエルを侵略。反革命橋頭堡にして、この下に反動王制勢力を結集し、石油の安定獲保とパレスチナ・アラブ革命

の圧殺をはかるものであつたが、そして、米帝はこの下に、ベトナム「和平」後の軍事的手余り状態を解消すべく、第四次中東戦争を挑発したが、イスラエル軍事力の相対的弱体化を経験し、産油国石油攻勢にあい、急拠、エジプト、サウジアラビアの反動王制勢力とブルジョア民族主義の結合を支柱とし、カダフィイ等小ブル急進民族主義や、PFLP等の民族解放。社会主義の勢力の分解。孤立化を狙い、和平ミニ「パレスチナ国家案」を提起し、新々植民地戦略を開拓せんとしているが、この挫折は明瞭です。

これは、アラブ・パレスチナ人民の望むところではなく、世界革命の一環としての民族解放。社会主義革命を望む労働者人民の勢力を背景にして、PFLPやアラブ赤軍の同志達を最先頭にして、シオニズム紛糾、和平紛糾、パレスチナ・アラブの完全解放、プロレタリア共産主義、世界革命の旗印の下、国際的ゲリラ戦が世界革命戦線の最前線を担つて展開されている。このパレスチナ・アラブ革命は、将来、国際資本主義のエネルギー源たる石油を独占する可能性をはらんでいる点で、世界革命と反革命の、最も鋭く、深い激突を内包し、世界革命の爆薬庫たる位置を占めている。かくて、ニクソン＝キッシンジャー戦略は、ここで破綻は約束されているのです。我々は、第一次、第二次帝国主義戦争の最深部に、中東石油資源の争奪戦が、大きな比重をもつて存在していたことを忘れてはならない。

へろ▽ 現代帝国主義の危機と、世界・各国

革命戦争の成熟

ニクソン＝キッシンジャーの他帝国主義への巻き返し戦略はどうか。

米帝は、第二次大戦過程と五〇年代において、資本の圧倒的集中・集積を誇り、又、高度な技術革新力を保持していたわけだが、このような米帝の経済力の源泉は、第一は、特殊に、第二次大戦過程での集積を含みながらも、恒常的には、全世界の第三世界から、新・旧植民地主義を通じ、暴利を搾取・収奪し、この成果をもつて、欧米や日本を経済的・金融的に支配したことになります。このような米帝の基本源動力は、六〇年代に至つてもかわらないわけですが、五八年ECの結成や五〇年代末の日帝の復活、そして、高度成長にみられる如く、他帝国主義の勃興を経験する中で、急激な地盤沈下に陥り、必死で大合理化・合併の集中運動や、公共投資の拡大や、ケネディ・ラウンドにみられるドル防衛や関税引下げ戦略を追求したが、結局、巧を奏さず、軍事経済・ベトナム戦争への全面投入によつて危機を回避せんとし、今一つは、ドルの発行権を独占し、国際通貨の有利な操作ができることを利用し、減価したドルを、それ以上の価値として偽装することによって、ドル資本の西欧へのダンピングをやりつゝ、ECの外貨規制の枠を越えて、資本輸出を開拓した。このような資本をブルジョア共は「多国籍企業」と名付けて、

その階級的性格をゴマかしているが、国籍は明確に米帝であり、資本輸出の現代的形態にすぎない。この資本輸出を欧帝、特に仏帝は許容することなく、頑強に拒否してきたが、通貨操作や西独（独帝は相対的競争力があり、また、軍事的従属関係からしても、比較的の流入を寛容）を通じて流入したわけだが、巨視的には、EC諸国が米帝を軸とする世界市場を分断することを回避する、歴史的諸条件によつて規定される。ともあれ、ニクソン＝キッシンジャーは、西欧のこの米資本を強化・拡大し、米帝の歐州再支配を、ドルの切り下げ、SDRの採用等の譲歩をはかりつつも、全体的には、よりドル体制を防衛することによつて、もくろんだわけだが、これは、西欧や日本もインフレ流入に逆インフレで対抗し、遊弋過剰ドルの追い払いをやつたりして限界づけられている。

総体として、米・EC・日本の不均等発展の激化と平準化が拡大し、この大勢をかえることはできない。つまり、EC諸国は日本と共に五〇年代米帝の、金融的・経済的・軍事的関係の下に復活。自立したのも、六〇年代対ソ・対米・周辺ヨーロッパの包摂、中近東・アフリカの下層構造下、資本と労働の自由移動、技術の交流、農業の再配置・再編成・分解等を目的に、広域統一市場を一定程度実現し、高度成長を実現した。とりわけ、トルコ、ギリシャ、イタリア、スペイン、

アルジェリア等の、周辺からの移入、農民の分解とプロレタリア文化等が、発展の基礎にあった。が、今や、生産の社会化・国際化とブルジョア民族国家の矛盾は累積し、ブルジョア民族国家の枠がとりはらわれるわけではないことを示している。内部ですらこんな状態であるが故に、外からの米資本の流入に対して、これを規制するのは自明のことです。むしろ、欧帝や日帝は、米帝に比べれば、比較にならない資本力ではあれ、第三世界のアジア・中近東・アフリカへ、逆再分割を挑んでいるのが現状である。

尚、我々は、米・ECに挾撃されて没落した老朽帝国主義英の危機、EC内部でのイタリアの矛盾と危機の先行、或いは、ECの下層構造としての、歐州の田舎、ギリシャ、トルコ、スペイン、ポルトガルへの矛盾のしわ寄せからの、ギリシャやトルコの軍事独裁政権の成立、スペインのフランコ体制、ポルトガルのギニア・アンゴラ・モザンビーク等への植民地主義の継続と動搖等の情況も、見落してはならない。

むしろ、一定程度、ニクソン＝キッシンジャー戦略が効を奏し、その犠牲にされているのは日帝です。日帝は、EC諸国の如き連合もなければ、國際環境の相違からしても――現代修正主義のソ連に比して、アジアの民族解放・社会主義と、中国・朝鮮・ベトナムの社会主義ベルトに包囲されているし――米帝から、EC諸国程の相対的自立もできず、結局、米帝に従わざるを得ず、國際帝国主義相互の國際競争戦のしわ

かかる帝国主義経済体制の不安定。各国金利格差の不均衡を利用して、膨大な遊体過剰資本が、投機利潤を求めて、全世界を遊弋（ゆうよく）する事態も生れる。そして、ユーロダラーの大移動が、益々世界金融体制を動搖させてゆく。また、國際帝国主義は、ドルにかわる國際通貨を願望するが、しかし、米帝を追い落す程の力もなく――特殊には、金本位制への一挙の復帰などは、ドルと金の交換の際、予想もつかない取り付け騒ぎを起し、一挙に恐慌に発展することも考えられる――結局は、米帝のドルの発行権は容認し、ドルの平価の切下と、各國通貨の部分的國際通貨化（ISDR）で満足せざるを得ない。それ故、米帝のドルのタレ流しは止めることができず、これに対抗するかたちで、各國は逆インフレで対抗する。このような悪循環をもつて、全世界的インフレが蔓延しているわけです。かかる國際通貨体制の解体的安定の根拠は、先進国帝国主義相互は、米帝に対しては損をしているが、第三世界諸国との関連では圧倒的利益を得ること、今一つは、恐慌と世界革命の回避を共通の利益とし、また、かかる状態を、衰えたとはいえ、米帝が事態を統合する機軸に坐る力量はもつていること、にある。従つて、我々は、中核派の如く「三〇年代へのラセン的回帰」を現代世界の最大の特徴として抱えることはできない。

資本の本能的衝動として、このような側面が益々強まってゆくことは、明瞭なわけだが、これを阻む經濟的・政治的策略として抱えることはできない。

かくして、このような帝国主義の國際的・国内の蓄積構造

一プロ人民への矛盾転嫁の長期經濟停滞・局地的反革命・侵攻等にみられる如く、集中的に転嫁される点で、先進国階級の拡大へとはね返り、國際通貨体制は、益々空洞化し、これに応じて、なし崩し的ブロック化が進展し、世界統一市場の分断化傾向が増し、他方では、先進国經濟体制から排除された中・後進国の一歩先んじた危機が、『資源国ナショナリズム』として爆発し、先進国再生産構造を動搖させ、これらの矛盾をも乗り越えるかたちで、先進帝国主義は、より一層、中・後進国に依存した寄生性を益々増大させた、國際的蓄積構造の再編強化を強いざるを得ない。

他方では、過剰生産・過剰資本の矛盾の爆発 恐慌の大爆発を回避する為、「有効需要の促進」という名の、財政・公共・軍事・对外援助の拡大を開拓し、米帝の輸入インフレと相乗化されつつ、猛烈なインフレをひき起させつつ、他方では、各國蓄積・再生産構造の改造が追求され、これらの負担は、全て労働者・人民に「國民經濟の危機・産業の救済」という名の下に、転嫁されてゆかざるを得ない。

かかる帝国主義経済体制の不安定。各国金利格差の不均衡を利用して、膨大な遊体過剰資本が、投機利潤を求めて、全世界を遊弋（ゆうよく）する事態も生れる。そして、ユーロダラーの大移動が、益々世界金融体制を動搖させてゆく。また、國際帝国主義は、ドルにかわる國際通貨を願望するが、しかし、米帝を追い落す程の力もなく――特殊には、金本位制への一挙の復帰などは、ドルと金の交換の際、予想もつかない取り付け騒ぎを起し、一挙に恐慌に発展することも考えられる――結局は、米帝のドルの発行権は容認し、ドルの平価の切下と、各國通貨の部分的國際通貨化（ISDR）で満足せざるを得ない。それ故、米帝のドルのタレ流しは止めることができるず、これに対抗するかたちで、各國は逆インフレで対抗する。このような悪循環をもつて、全世界的インフレが蔓延しているわけです。かかる國際通貨体制の解体的安定の根拠は、先進国帝国主義相互は、米帝に対しては損をしているが、第三世界諸国との関連では圧倒的利益を得ること、今一つは、恐慌と世界革命の回避を共通の利益とし、また、かかる状態を、衰えたとはいえ、米帝が事態を統合する機軸に坐る力量はもつていること、にある。従つて、我々は、中核派の如く「三〇年代へのラセン的回帰」を現代世界の最大の特徴として抱えることはできない。

資本の本能的衝動として、このような側面が益々強まってゆくことは、明瞭なわけだが、これを阻む經濟的・政治的策略として抱えることはできない。

かくして、このような帝国主義の國際的・国内の蓄積構造

一プロ人民への矛盾転嫁の長期經濟停滞・局地的反革命・侵攻等にみられる如く、集中的に転嫁される点で、先進国階級の拡大へとはね返り、國際通貨体制は、益々空洞化し、これに応じて、なし崩し的ブロック化が進展し、世界統一市場の分断化傾向が増し、他方では、先進国經濟体制から排除された中・後進国の一歩先んじた危機が、『資源国ナショナリズム』として爆発し、先進国再生産構造を動搖させ、これらの矛盾をも乗り越えるかたちで、先進帝国主義は、より一層、中・後進国に依存した寄生性を益々増大させた、國際的蓄積構造の再編強化を強いざるを得ない。

他方では、過剰生産・過剰資本の矛盾の爆発 恐慌の大爆発を回避する為、「有効需要の促進」という名の、財政・公共・軍事・对外援助の拡大を開拓し、米帝の輸入インフレと相乗化されつつ、猛烈なインフレをひき起させつつ、他方では、各國蓄積・再生産構造の改造が追求され、これらの負担は、全て労働者・人民に「國民經濟の危機・産業の救済」という名の下に、転嫁されてゆかざるを得ない。

かかる帝国主義の國際的・国内の蓄積構造

乱・内戦・蜂起のプロレタリア革命戦争が、先進資本主義のど真中で、成長してゆかざるを得ないので。これこそが、現代帝国主義の必然的運命なのです。但し、この過程は、世界革命戦争において、帝国主義と社会帝国主義の同盟による、共同反革命に対して、反帝反社帝の世界革命勢力の形成が、自己の危機を社会帝国主義を動員し、自らの危機を補填されるかたちで利用するが故に、反帝反社帝の二面戦争として展開されてゆくことを、はつきり確認しておくべきです。

そして、かかる矛盾を通して生み出された、現代帝国主義が創り出した、生産の社会化・国際化は、世界プロレタリア独裁を経ての、世界共産主義社会の物質的基礎を成熟させ、他面では、プロレタリアートを世界プロレタリアートに、より一層打ち鍛え、世界党ー世界赤軍ー世界革命戦線の陣型を発展させ、"形式的"には、各国毎に開始された革命は、反帝反社帝の世界共産主義革命として、ブルジョア民族国家の枠を越えて成長してゆかざるを得ないので。

△△△ 社会帝国主義ソ連の運命

尙、プロレタリア国家は、一つにはこの資本主義世界に孕まれ、成長しつつあるプロレタリア世界共産主義革命戦争に対して如何なる態度をとるのかをめぐって、また今一つは、一国経済の限界性と又そこから生じる階級・階級闘争（或いは、擬制的な）に如何なる態度をとるのかをめぐって、根本

的分解にたたされる。中国共产党は、前者に対して、反米民族主義の戦略の問題性はあるが、プロレタリア世界革命の大後方リ根拠地になる方向を追求し、又、後者に対する自力更生の旗の下、農業基礎ー工業主導の方向で、工業と農業のバランスをもつた拡大再生産構造を確立し、まずもつて一国経済の確立をめざし、他方では、この一国経済の根底的限界性を世界共産主義経済で突破する戦略的方向性を獲得している。このような政治・経済的方向性を実現する要として、「生産力の最大のものは人間である」「獲得された新しい経済関係に見合う上部構造の革命ー資本主義の生産関係と上部構造を一掃する階級闘争の推進」「資本主義の復活との闘いー社会帝国主義の闘い」等を提出し、「社会主義」の下での二つの道の階級闘争の路線を提出している。

我々は、世界戦略の問題性はあるが、この路線がトロツキーリの敗北主義の一国社会主義存立不可能ープロ国家内階級闘争の世界革命への全面還元論の小ブル空論主義や、ブハーリン・スターリンに端を発する民族的利己主義と国内資本主義勢力に立脚した、世界革命と「二つの道の階級闘争」を放棄した「一国社会主義」路線とは異なる路線であることをしつかり見究めておかなければなりません。

ただ、このような「一国社会主義」路線は、一九二〇年代のスターリン・トロツキーの党内闘争に端を発しているが、しかし一〇年代のこの路線と三〇年代との区別をみておく必

要があること。二〇年代のスターリンの政策は比較的レーニンに忠実でーこの点で我々は、トロツキーの立場にはたたない。むしろフハーリンが一番駄目なのだーレーニン主義と十月革命の遺産はまだ食いつぶされてないこと。スターリン・コミニテルン路線は二八年第六回大会（スタ・ブハ路線）にみられる如く、國際帝国主義の危機に対して「第三期の到来→階級対階級」と左旋回し世界革命を追求する姿勢は十分あつたこと。トロツキーリ流の社会ファシズム論は間違い、これらは全く右翼的な間違った批判です。だが、「民族解放・社会主義戦争ー前段階決戦のプロレタリア社会主義革命戦争ー根拠地化・継続革命」の三ブロック同時革命の世界革命戦争の路線を敷ききれず、独革命ー中国革命を両輪にして総敗北し、またスターリン式の「農業国有化ークラーク撲滅ー工業化」の「社会主義建設路線」も、その偉大な試みにも拘らず、上からの強権的性格が強く、プロレタリアと農民の全國的な大衆的革命運動として、中国革命の如く、大衆路線に基づく性格が弱く、それ故この試みも、部分的で中途半端に終り、決定的なのはその後、中国革命の如く、「二つの道の階級闘争の継続革命」の路線を敷ききれず、階級なき全人民

社会」を宣言し、從つて「党と」國家」を批判するのは人民の敵ー帝国主義の手先」として、人民内部の矛盾に敵対矛盾を混同し、プロ人民の階級闘争を虐殺・肅清していくのでした。

従つて我々は、スターリン主義を、二〇年代末ー三〇年代の世界階級危機に対し、三ブロック・テーゼに基づく三ブロック同時革命の創造的展開への挫折、それ故の帝国主義の勝利・延命とロシア革命の再包囲網の強化の中で発生したものと把えるべきです。又その本質は端緒的な現代修正主義と把えるべきです。この点で、我々はトロツキストの如くトロツキズムを美化する「スターリン主義二〇年代発生論」を排し、他方では、毛教条派の如く、現代修正主義はフルシチヨフ以降として、三〇年代のスターリン主義を擁護する毛教条派の立場をもとるべきではない。

スターリン主義は三〇年代世界革命の敗北に規定され、帝国主義間戦争のどちらか一方を支持し、全世界人民の闘いを犠牲にし、民族的利己主義と国内資本主義勢力に妥協する中で、「革命」を延命させようとして成立したのです。かかる三〇年代世界革命の敗北、ロシア革命の変質の上に國際帝国主義に包摂された反ファシヨ統一戦線ー人民戦線路線（第七回大会）が打出され、国内では、この反動路線に反対するものを何百万にもわたって肅清し、これを対外的に拡大したのです。スターリン憲法とコンミューン四原則の放棄、労働の質に於ける分配の導入、軍隊内への位階制の導入、秘密警察の拡大、強制収容所の拡大、被抑圧、大ロシアシヨヴィズムの鼓吹etc。従つて我々はかかる脈絡で、スターリン主義の生成を把え、三〇年代スターリン主義を否認するものです。

毛沢東主席に指導された中国共産党は、かかる「過渡期世界の革命」に挫折したスターリン路線の変質の枠内から出发しつつも、従つてこの反動性の犠牲を蒙りつつもこれに反対し乗り越えるかたちで、中国革命の鉄火の実践の中で、成長していくこと。毛主席と中国共産党は、スターリンが指導出来なかつたプロペラの下での民族解放・社会主義革命の連続革命に成功し、又、過渡期世界でのプロレタリア国家の根拠地化＝継続革命・社会帝国主義批判にも成功することによつて、マルクス・レーニン主義を過渡期世界の革命路線として継承・発展させ、偉大な業績を残していったことをしつかり確認しておかなければならない。毛沢東思想に基本的に残された点は、先進国に於ける前段階決戦－反帝反米の攻撃的蜂起としてのプロレタリア革命路線の成功を経験していく、それ故コミニンテルンの30年代の先進国革命や現在の先進国革命にはつきりした態度がとれず、反米民族主義の路線を許容することです。（しかしこれは、我々の問題であり、毛主席や中国共産党にアレコレ言えたギリではない）。

ともあれ、30年代後半のスターリン主義の決定的反動化を経て、第二次帝国主義戦争の終結過程で勃発する世界革命の大昂揚に対して、スターリンは、反ファシズム統一戦線から反米－「冷戦」戦略へと転換したものの世界革命の波を中心で押しとどめる「新しい性質と型の革命たる人民民主主義革命」をブチ、西欧革命を制限し、中国－朝鮮－ベトナム革

命等に枠をはめようとした。しかしながら中国共産党を初めとするアジアの民族解放・社会主義の革命勢力はスターリン。コミニンテルンから離脱し、自力獨行出来る力量を蓄積していしたこと。スターリンの死を経て、戦後世界革命の総括、或いは第二次世界大戦を経ての國際帝国主義と諸階級の大変動（米帝を頭目とする世界体制－植民地体制の動搖と民族解放運動の昂揚、幾つもの「プロレタリア国家」の成立、先進国内部の労働者人民の前進等）に対しても、新たな國際共産主義運動の総路線が問われる中で、30年代からソ連の重化学工業化・軍事経済化の進展の中で形成された工場の管理・技術者層を新しい支配階級勢力に加えたフルシチヨフが、米帝に屈服することを前提とする平和共存戦略を掲げて、スターリン（の個人）批判をおこないながら登場した。これがいわゆるソ共二〇回大会です。以降六〇年初頭のフルシチヨフ失脚以降、ブレジネフ・コサイギン路線が、フルシチヨフ路線を部分的に手直しつつ、スターリンを部分的には復権しつつ、登場し現在にいたる。スターリンが一応表面的に、マルクス・レーニン主義の繼承者として、世界革命・暴力革命・プロレタリア独裁等を掲げ、自らの日和見路線をM-L主義の尺度から整合せんとするだけの「左翼性」「原則性」を保持していたのに對して、このような「左翼性」「原則性」は全て投げ捨てられ、スターリンの修正主義部分だけが肥大化して継承され、平和共存－生産力競争戦－議会を通じた平和移

行－新植民地主義の背中合せの小ブル或いはブルジョア民族主義の許容とプロペラの連続革命路線の放棄、『社会主義大家族制』『社会主義労働』という名の下でのソ連民族経済への他国の隸從、等の現代修正主義の路線が定式化され、國內的には、共産主義的生産の源動力は本来共産主義的所有関係にもとづく社会構成員の共産主義的＝階級的自覚にもとづく労働であるわけだが、このような所有関係と階級意識が欠如しているソ連社会は、社会的生産は結局、商品経済関係に基づく価値関係に立脚しておこなわれるを得ない。そしてそれは必然的に利潤率を賃金でもつて生産とそれをめぐる人ととの関係を規定せざるを得なくなり、その帰結としての官僚－管理・技術層の資本化と利潤率－ホヅラチユード制に基づく企業間競争が資本の競争戦と同じ論理でもつて展開され、これに応じて生産的労働者の賃金奴隸化が進行せざるを得ない。労働給付が『物質的刺激』と称され出来高払い賃金に近い賃金制度にとつてかわられること、ソ連社会は、单一の国家資本に個別資本が完全に包含されているが故に、純然たる資本主義生産関係－自由競争・価値法則による市場調整・賃金奴隸制は、資本主義社会ほどではないが、自由価格制は採用されていないにせよ、このような事態が生まれないと保証することは出来ない。そして労働の移動も。

このような国家官僚制・資本主義生産関係は、生産手段の共有化と生産を、コンミューン四原則のプロレタリア民主主

義に立脚し展開し、取残された資本主義上部構造の諸関係を不斷に変革し、不斷に発生する、とりわけ精神労働と肉体労働の資本主義的分業から発生する、新旧の資本主義勢力を階級闘争を通じて消滅させてゆく鬨びが伴なわなかつたところに根拠がある。そして、この社会では「一方では富の蓄積が他方での貧困の蓄積となつてゆく」関係はいぜん繼續し、又、利潤率の高生産分野としての都市の重化学工業部門が、利潤率の低い農村を荒廃させ、これを犠牲にしつつ－何んら第一部門と第二部門の正しい比例的な均衡的発展は促進されず（中国と比較せよ）－進展してゆく。それ故に農業労働者は優遇されず農業部門は必然的に停滞し、社会的分業の矛盾が拡大してゆくソ連の農業部門の恒常的不信はこれに由来する。又、農業部門の停滞、工業部門の緩慢な発展と限界故に、国家に所有された資本は遊体化し、超過利潤を求めて、これは第三世界へ借款や「援助」という名目で投下され、途上国の經濟的従属を促進させ、又これと引き替えに原料資源が収奪され、又ソ連の衛星国として軍事基地が求められる。そして、このようなソ連国家資本主義の必然的帰結としてソ連艦隊の七つの海に浮上する炮艦外交が展開されてゆくのです。

我々はかかる実態としてあるソ連を「超大国の社會帝国主義」として規定せずしてなんと規定したらいいのか！又、自國の經濟的停滞をプロレタリア人民の革命的共産主義生産運動によつて突破出来ないで、利潤率本位の生産の拡大に頼

る結果として、先進帝国主義の資本移入をチュメニ油田開発やシベリア鉄道開発等に利用し、増々、資本主義化を強めてゆくこと。

今やソ連社帝は、米帝の後退の穴を補填すべく、増々、帝国主義的侵出を繰り返し、コメコン諸国との矛盾も激化し、世界の闘う人民からその正体が暴露され、内側から種々な反体制勢力が成長し、その象徴として小ブル自由主義の観点からのソルジエニツィン博士等の告発が持続している——我々は絶対にこのようなソルジエニツィンのような立場を四トロの如くブル新まがいに、革命勢力として支持するわけにはゆかないが。

かくて我々のプロレタリア共産主義革命は、反帝反社帝の世界革命になるのは明瞭です。（但し、その革命が、全面的暴力革命。革命戦争を機軸とするものか、イデオギー戦争。政治闘争が主体となつた形態かはわからない。だが我々は、官僚・高級技術者・学者・文化人・軍人等の資本家勢力を明確に敵対階級として規定し、プロレタリアの独裁一ソヴィエトの復活をめざし、第二プロレタリア革命を開始する観点は厳に明確化しなければならない。）

我々は、ソ連を「堕落した労働者国家」とか「小ブル化したプロ国家」とかの曖昧な規定をおこない、社会帝国主義を美化する日共や第四インター等の勢力に対し、断乎たる批判を加え——中国の社帝批判を、「スターリンの社会ファシ

々の闘いの生涯の赤旗であることにはかわりはない。

△補論▽中国「社会主義下『階級』闘争」路線の擁護の為に——トロツキズム社会主義論の敗北性を批判す

さて最後に、中国の「社会主義下階級闘争存続論」にケチをつけ、反中国の旗振りにうつつを抜かしている反スターリニツキストの諸君に対して、我々の理論的・政治的態度をはつきりさせておこう。

① 第一にこれ等の諸君は、中国革命が切り拓いた民族解放—社会主義の闘いを、又、根拠地化し継続革命の種々な闘いを真面目に理解し検討する姿勢が全くなく、その部分的欠陥を抱えて全てを否定する「唯物論の相対論」の観点にてたない、「觀念論の絶対論」の見地にたつ小ブル傲慢主義の立場であること、我々はこのような態度を断乎排してゆく姿勢をもつべきであること。彼等にとつては、プロレタリア文化大革命も、ブルジョアマスコミまがいの単なる「権力争い」の類にしか評価されていないからです。毛沢東もスターリニストであり、「マオスターイリニスト」として一蹴して喜んでいるわけです。

② 問題なのはこのような反スターリニツキストではなく、中国革命を真面目に評価し、「社会主義下階級闘争説」の内容を評価しつつも、「ゴータ綱領批判」によつて「社会主義

ズム論だ」と批判する笑うべき目出たい連中なのだ——社会帝国主義打倒の闘いを全面的に推進しなければなりません。ソ連をどのように抱えるかは、第二インターをレーニンの如く社会排外主義と規定するか、トロツキーの曖昧化し動搖するかの決定的分岐を形成するものであり、この点に於ける原則的闘いが組織されなければならない。今や反スターリニツキストの諸君はワケがわからなくなつて——主に四トロの類、バプロ系——日共と同じよう、「社会主義勢力の不团结論」に依拠し、「國際共産主義運動の分裂を固定化する」という、國際帝国主義に屈服し、社会帝国主義批判を中心とする中国の全体的な相対的正しさを陰蔽する主張を展開しているが、これ程危険なまちがつた意見はない。従つてこのような問題に明確な態度をとれず、プラグマティックに対応している革命的自主独立派のキューバやベトナム。朝鮮の革命的労働者党に、相対的に中国の正しさを承認し、中国の側にたちこれを乗り越えるよう要求しなければならない。とりわけキューバのソ修への迎合は、厳しい同志的批判がなされなければならない。この点では、我が敬愛すべきゲバラ同志も、世界革命の綱領上の理論問題、國際共産主義運動の括弧を正しくやりきれず、理論闘争—國際党派闘争を通じた世界党建設の闘いを、ゲリラ戦の中に解消してゆく傾向があつたことを敢て確認しておかなければならぬ——といつても六六年の当時ですら彼は、現在の我々の理論水準には達していたのだが。その点でゲバラ同志の旗は、依然として我

『共産主義第一段階では階級は存在しない筈だが?』と考へて、この意味をとらえかねている諸君です。これに對して反スターリニストは、「ゴータ綱領批判」の修正だ」と、文献解釈学の教条主義的主張を展開し、又これに反対し、毛沢東思想を擁護せんとしつつも正しく擁護し得ず、結局、社会主義の概念をプロ独期と修正し、結局は、社会主義の段階をマルクス主義の中から追放してゆく間違った修正主義的見解も生れるのです。つまり「プロ独=社会主義」論は、マルクス主義の修正であるばかりでなく、毛沢東思想にとつても迷惑なわけです。又、我々としても、誤解が我々にまで振りかかつてくる点で、極わめて迷惑なわけです。

「ゴータ綱領批判」は、社会主義は共産主義の第一段階であり、生産手段が共有化され、労働が総労働の直接の一環として存在し、階級が消滅し、残された階級差異・三大分業・個人差等の克服がめざされ、徐々に「能力に応じて働き労働に応じて受けとる」段階から「能力に応じて働き必要に応じて受けとる」段階への移行期である、等やその他の諸規定が展開されている。これ等は正しいし、我々の共産主義論はここから出発しなければならない。それでは中国の「社会主義下階級闘争存在論」は間違つていて修正主義なのか。断じて否です。まず以下の二、三の予備知識を本題に入る前に確認しておこう。

中国の社会主義の見解は広義の概念規定で、生産手段の全

面共有化＝全人民所有以前の部分的全人民所有十集団所有の混合したプロ独期の段階まで拡張していること。このような概念の拡張は、狭義の社会主義＝生産手段の全人民所有の下での共産主義の第一段階とプロ独期との区別があり、狭義の概念を追放しない限りレーニンも使用しているので全く正しい。又、現在の中国の段階は全人民所有十集団所有の段階であり、従つて厳密な意味での社会主義社会ではない——つまりプロ独社会——ここからして、中国の「社会主義下階級闘争存続論」は実践上プロ独社会での階級闘争を意味しなら問題ではない。

しかし、中国はこの理論＝路線を狭義の社会主義の段階でも階級闘争の存続を主張している。問題は、この点が理論上正しかか、否かです。

(Ⅴ) まずこの点で、中国の階級概念についてですが、これは「死滅しつつあるが、正しい路線の指導がない限り復活する階級」とも規定し得る二面性をもち、資本主義生産関係下の経済的基礎をもつ階級概念とはかなり異つてゐること。レーニンが「偉大なる創意」で規定しているように、階級は、④生産手段の所有関係を軸とする生産関係から規定される、⑤ここから規定され、労働の成果の分配関係から規定される、⑥この④⑤の生産分配関係に規定された人ととの社会関係から規定される、と三つの側面から規定される。この点で、所有面で社会主義化されても階級・階級闘争が自動的に

一步であるが、国有化から共有化へは自動的に発展するのではないこと、そこには、プロレタリアートを社会の主人公とするプロレタリア民主主義が生産・分配・消費の中で貫徹され、生産手段の管理者を完全に所有し支配階級化を排除し、これをめぐる新旧の資本主義的社会関係が消滅させられ、新しい共産主義的社会関係・上部構造を樹立する闘いが存在しなければならないこと。このような所有関係と上部構造の革命的変革を通じて、擬制的半階級から階級は徐々に死滅していくこと。もしこのような、生産手段共有化後の所有関係と上部構造の変革が（勿論生産力の増強は前提として）放棄されれば階級は消滅せず、これを階級は消滅したと考え、後には生産力の拡大のみと見え、擬制的な半階級と階級闘争の消滅の闘いを放棄した場合、資本主義と階級の復活・逆行現象が生ずるのは当然であること。とりわけ、國際帝国主義と競合下にあり、國際反革命が不斷に内面化し、また生れでたばかりでブルジョア社会の母斑を多分に有した低生産力のブルタリア国家では旧資本主義勢力が不斷に復活を企み、それがプロレタリア党と管理者層に侵透し、正しい根拠地化と継続革命の國際＝国内路線がない場合、従つてこの路線に基づく「二つの道の階級闘争」がない場合、党と管理者が変質し、

内側から新しい資本主義勢力が形成され資本主義の復活が実現することは十分あるし、現にソ連では（それ以前のユーロは勿論）実現されてしまつてゐる。このような資本主義の復

に消滅するのではなく、全面的でないにせよ存続すること。この完全な消滅は⑦や⑧を消滅させる上部構造の革命が意識になされない限り、階級は消滅しはしないこと。中国の階級概念はこのような規定性をもつてゐること。我々は、かかる状態を純粹な階級概念でも規定されず、さりとて超階級的な單なる階級的差異や個人差や或いは進んだ生産力と遅れた生産関係の矛盾から生じる矛盾とは把えない。かかる半階級として把えるのだが、中国の階級概念はこのような擬制とする階級ではない点で、擬制的な状態を概念付けたこと。

(Ⅵ) 我々は、階級の消滅を所有関係を軸にして確定する。従つて、所有関係がかれれば階級も消滅すると大雑把に考えがちであるし、基本的にはこれは正しい観点である。しかし、ここには概念上の陥穽が存在すること。生産手段の国有化（集產化）は、必ずしも生産手段の全人民所有化を全面的に意味しないこと。生産手段の国有化と生産手段の全人民的所有を排除しているが、前者は全人民的所有とは同一視出来ないこと。そこには生産手段の国有化・集產化が官僚・管理者所有に変質するか、官僚・管理者占有を通じて、全人民所有として名実ともに生産手段の共有化が実現するかの、矛盾が存在すること。つまり、生産手段の国有化は、共有化の間には種々な階梯があり、どちらも資本主義の私的所有を排除しているが、前者は全人民的所有とは同一視出来ないこと。そこには生産手段の国有化・集產化が官僚・管理者所有に変質するか、官僚・管理者占有を通じて、全人民所有として名実ともに生産手段の共有化が実現するかの、矛盾が存在すること。

④以上から、生産手段が国有化された段階、つまり「共有化」された段階でも擬制的な半階級・階級闘争が存在し、プロ独が（対外的のみならず、対内的に）必要である点で、中共の「社会主義下階級闘争説」は理論が実際に測して発展させられている点で全く正しいわけですが、このような実践的な過渡期論や共産主義論を反スターロシキストは全く理解できないわけです。彼等は「ゴータ綱領批判」を真に理解せず、その命題を教条主義的にあてはめて、「階級は存在しない——修正主義だ」とガナリたてるわけだが、「ゴータ綱領批判」の命題が現実の経験に測してどのように正しく発展させられねばならぬかはほとんど問題意識がない。「ゴータ綱領批判」の命題は、資本主義を否定的に抽象して導き出されたものであり、その点では純粹に理論上の抽象であり、このような一般的抽象命題が、現実の中でどのように貫ぬかれるかを究明しない限り、単なる現実のケチつけに終り実践上の闘う路線とは全くならないこと、この点では彼等は生産手段

共有化後の実践的路線を全く所有せず、実践上はソ連の「全

「人民的国家論」を対置し、過渡期世界でのプロレタリア国家の生産手段共有化後の特殊な矛盾の解決を提出できずソ修を美化してしまうのです。

② 以上の如き毛沢東過渡期論の理解の上にたって初めて、我々は一九二〇年代のレーニン死後のスタ・トロ論争を総括することが出来る。トロツキーは、國際帝国主義に包囲され、低生産力のソ連では一国からの社会主義は出来ない→従つて、國際帝国主義打倒に集中し、この為には経済的には農民を搾取してもプロ独の下で工業化を進めるべき、と主張したわけだが、この見解は國際帝国主義や低生産力の条件を過大に評価し、プロレタリアと農民の革命的團結を信じないペシミズムであり敗北主義です。経済的にも、社会主義經濟の拡大再生産の發展構造と資本主義の重化学工業第一の發展構造の区別が出来ず、プロレタリアートと農民を敵対させるブルジョア的理論です。この点でブレオブラセシスキーの社會主義原初蓄積論は誤りです。スターリンは、まがりなりにも最初多くのミスをやりつつも、レーニンの路線を受け継ぎ、まずもつて一国から社会主義を建設してゆくリアルな現実を理解し、世界革命と国内建設、プロレタリアートと農民の團結、工業と農業の關係等を統一せんとした志向をもつていていた点で、我々はスタ・トロ論争に於ては相對的にはスターリンの方が正しい対応をしたと確認しておくべきです。スターリンは二〇年代では一国社会主義存続可能な主張したが完成可能とは

へ9▽ 結 論

以上の國際情勢の分析から我々は如何なる実践的結論を引き出す必要があるだろうか。簡単にこれまでの分析を要約しつつ、我々の結論を展開することにします。

① 戰後國際帝国主義の世界体制は米帝を支柱として、M.F.・ガット、國際反革命同盟の多国的大・政治經濟機構を媒介にして、新(旧)植民地国を搾取・収奪・抑圧し、ここから搾りとつを利潤を分配し合うことによつて、帝国主義相互の矛盾や帝国主義内部の階級矛盾を緩和していく。ソ連は、國際反革命同盟に暴力的に規制され、かかる國際帝国主義の体制に平和共存をとねえ組み込まれていつたこと。従つて、國際帝国主義は新植民地体制を基底にして、自らの蓄積と再生產の構造を確立し、存続してきたこと。

② この國際帝国主義の国际的・国内的な蓄積・再生産構造が、それ自体が生み出す第三世界人民の犠牲の深まり、他方でのその指導部中国の正しい指導の下で、印度支那革命戦争を始めとして、民族解放・社会主義革命の昂まりの中で、又これを支える國際的人民の闘いの中でも、破綻しかかり、それまで抑制・隠蔽されていた帝国主義相互の矛盾や帝国主義内部の階級矛盾が激化し始め、「南北問題」「原料資源問題」「國際的運動インフレ」、先進国内階級闘争の激化として爆発していく、帝国主義世界体制が瓦壊し始めたこと。

③ この瓦壊に対し、超一流帝国主義米帝のみが独自に大勢挽回せんとする力量を保持し——他の帝国主義は米帝にかわつて世界体制を自力で再編する能力や意欲はなく——米帝は必死で延命をはからんとして、他の帝国主義もこれに矛盾を持ちつつも、追随協力してゆこうとしていること。

かかる帝国主義世界体制の危機の中で、帝国主義体制の戦後の安定の中で、自らの社會帝国主義の政治經濟的基礎を確立し、停滞しながらも著しく肥大化してきた、ソ連社帝は、自己の存立の問題として、帝国主義世界体制を必死で救済し、第三世界人民とこれをとりまく全世界の革命闘争の昂まりを、その指導部中国を、反革命包囲せんとしていること。そして、この米帝との共同反革命の上で、米帝と相互に協力し、米帝の後退の穴を埋め帝国主義的利益を裏奪していること。正に、二大超大国によつて帝国主義世界体制は護持され、再分割されるとしている。

かかる構造は世界プロレタリア共産主義勢力の世界革命戦争の防禦段階の勝利的前進にもとづくものであり、この構造の確立をもつて、世界人民の勝利の趨勢をおしとどめることは出来ないこと。

かかる二大超大国の世界体制の階級的特質を見抜けず、社民や資本主義内社帝の如く、またトロツキストの如く、「中の不幸な分裂が米帝を利用している」とするのではなく、ソ連社帝を免罪し、プロレタリア世界革命を完遂する上で、狡猾にし

て反革命の誤ちであること。

④ 結局、我々が分析してきた世界革命戦争の対峙段階の最大特徴とは、國際帝国主義の絶対的危機とこれを救済する社帝の全面化にもとづく帝国主義世界体制の延命のために帝国主義と社会帝国主義がブロックを組むことに特徴付けられる米ソ超大国支配体制であり、この帝・社帝のブロックを打ち破る力量が形成された時、世界革命戦争の総反攻・総蜂起が形成されること、この時帝国主義は最早裸の一握りのファシズム勢力を残すのみで自己の敗北を迎ねばならない。

かかる帝と社帝のブロックによる帝国主義の延命の構造は、世界的レベルの階級構造の問題だけではなく、途上国・先進国を問わず、また各ブロックを問わず、形成されていること。資本主義国に於ける政府危機と資本家と社民・社帝のブロックにもとづく連合政権や社民政権、或いは社共連合政権の誕生など。

⑤ かかる帝・社帝のブロックに基づく米ソ超大国世界体制に対し、國際共産主義者は反帝反社帝の世界革命戦略を獲得し、世界共産主義革命に占める民族解放・社会主義の重要な位置を正しく把握し、この世界共産主義・世界プロ独、反帝反社帝の世界革命戦略で武装された、世界革命戦争を遂行する世界党の建設をめざし、この世界党建設の闘いを横軸にして、世界共産主義革命勢力の強化を促進し、次の総反攻に向け持久的に闘い抜かなければならない。この世界党的建設は、

我々独自の課題であると同時に、毛思想で武装された中国共产党の指導権を同志的批判的関係の中で強く要請することを、特殊に留意しなければならぬこと。中国共产党は、国家・民族・階級に関する曖昧性や、先進資本主義国内の人民民主主義革命や受動的蜂起主義を許容するような問題点がありつつも、いぜんとして第三世界人民のチャンピオンであり、反帝反社帝戦略を実現し抜くもとも強力な指導部であること。

更に、口先だけの「左翼」空論主義の小ブル日和見主義者のトロツキストや、毛沢東教条主義の小ブル民族主義、民主主義の諸党派を党派闘争を通じて変革・止揚してゆかなければならぬこと。トロツキズムは毛沢東思想の意義を全く理解せず、スターリン主義として把え、民族解放・社会主義革命勢力に敵対し、世界史的階級関係の変化に規定された帝国主義の国際的・国内的蓄積構造を理解せず、単純に不均等発展を絶対化したりする幼稚極まる世界把握であり、日共等、資本主義内社帝勢力と同じく、社会帝國主義の階級的性質を見破れず、これを美化していること。トロツキー流「社会ファシズム論批判」で自己満足していること。毛沢東教条主義者は、毛沢東思想の部分的欠陥を致命的絶対的な欠陥に昂めていること。

かかる、社会帝國主義紛糾！ 毛沢東思想断乎支持！ ブロツキズムと毛沢東教条主義の克服止揚の三大機軸を党建設II党派闘争の中心に据え、この中で革命的ML主義のブロレ

タリア世界観をより一層打ち固め、プロヘゲモニーを強化し、これを軸にして革命闘争と党派闘争を開拓し、大きく反帝反社帝の陣型と党建設を遂行することが肝要であること。

⑥ 防禦段階の戦略・戦術の最大の特質は、⑤の如き党建設にあり、この党建設を横軸にして、これを中核にして、ブロレタリア・ヘゲモニーを独自に強化しつつ、ブロレタリア人の闘いを全力で支持支援し、その階級的現れを組織し、結合し、階級意識と組織を発達させ、革命勢力を総反攻に向けて大規模に強化育成してゆくことにあること。

従つて、このプロヘゲの形成II党建設の問題を抜きにして、経済主義や社会改良主義の政権戦略の路線を遂行したり、またこれ等の勢力と自己を政治的に区別し切れないのは階級的犯罪であること。今一つは、世界的総反攻に向けて党建設を軸にして、持久的な陣型を構築してゆかず、小ブルジョワ的自然発生性に拝跪する、超階級的軍事絶対主義や小ブル革命戦争主義、ゲリラ主義、テロリズム、サンヂカリズムは、断乎排除されなければならないこと。

プロレタリア日本革命の性格・その基本問題と我々の綱領

八一〇 日本帝国主義の階級危機の特質

以上からして、第三世界の搾取、収奪、抑圧を基底とする、日本の多目的、国際的、国内的、蓄積再生産構造は、構造的、根底的破綻に瀕したこと。原料資源の高騰、安価な外国労働力の利用への制約、米帝の敗退に伴なう、新植民地主義市場の不安定性の増大、経済的地位の向上に伴う、他帝国主義からの圧迫の増大、米帝の安保体制に支えられた国際的、国内的、政治的安定の崩壊、技術革新の頭打ち化、御用労働運動や、改良主義の牛耳の下で、農村の解体を要とする産業予備軍の創出に伴う、安価で優秀な労働力の利用の限界性、より一層の独占化に伴う、寄生性、腐朽性の増大とこの人民への圧迫の増大。etc。日本帝国主義は、資本の過剰と、国際的、国内的再生産の不均衡が構造化し、経済の構造的停滞の段階に遭遇したこと。これは日帝にとって、ほとんど解決不可能な危機である。

しかし、日帝にとっては、この二十年間採用してきた、經濟体系以外の、全く別の蓄積、再生産構造に置きかえることなど、全く考えられないし、また、実際、そのような別の經濟体系は存在しない。それ故に、日帝は、高騰した原料、資

この、日帝の危機の乗り切りの帰結は、ファシズムと軍国主義の侵略、反革命戦争への、絶望的薦進と、その不斷の限界性からくる、構造的、恒常的な、階級危機の状態の現出です。

八二一 プロレタリア日本革命の国際的・国内的性格

以上からして、日本資本主義は、様相を見かけとは異にして、内情は西欧の英帝につぐ位置を占める、先進資本主義の帝国主義世界体制の中での、アジアに於ける弱い環になってゆくこと、必死です。

また、この、アジアに於ける先進帝国主義の弱い環という特質は、一般に於ては、東南アジアから極東、朝鮮、台湾に至る、民族解放—社会主義革命の、烈火の波に接し、革命中国、朝鮮、ベトナムの、社会主義ベルトに接し、かつ、北方に於ては、社会帝国主義ソ連の、反革命、侵略の脅威にさらされているという点に於て、世界革命戦争政治のルツボを形成せざるを得ないという、特異な、政治的、地理的位置を占めている、ということに於て、倍加されてゆかざるを得ない。それ故、日帝は、第一に、米帝の国際体制の下に今後増え従属し、かつ、これを利用する中で、この危機を乗り切らんと志向すること、又、米帝はアジア、極東の帝国主義世界体

源、制約されつつある外国労働力、不安定な新植民地市場、他帝国主義との競争の激化と集中攻撃、国際的帝国主義体制の互壊化、技術革新の頭打ち化、労働運動、農民運動、他被擄取人民大衆の反抗の増大、独占化の矛盾の増大等の、制約諸条件を、一部は克服し、一部は他の条件の克服でカバーしたりして、強引に再編、強化して、強蓄積を强行していくがを得ない。

経済的にみれば、④第三世界を中心とする、対外市場の利益を、如何なる犠牲を払っても死守すること。⑤独占体制を進してゆくこと。⑥これら、前二者の限界性をカヴァーするものとして、産業予備軍の創出を横杆にして、労働者に対し一層、搾取、収奪を強め、かつ、被擄取人民に矛盾を転嫁し犠牲を強めること。である。このような、経済戦略を実現してゆく、政治戦略として、⑦より一層の、ブルジョア独裁をなし崩しファシズムとして強めてゆくこと、⑧独自に、軍国主義を強め、対外的、反革命、侵略体制を構築しつつ、かつ全般的には、これでもって、米帝により従属的に同盟し、米帝の帝国主義世界体制を補強し、その再編強化を積極的に推進してゆくことに利用する、⑨労働者人民の、戦闘化、革命化に對して、「赤旗を掲げて、赤旗を裏切る」日共・協会・革マル等、社会帝国主義勢力を、最大限利用し、革命派と切り離しつつ、これを抑圧し、体制内化せんとする事。

制の防衛、日帝の侵略の觀点からして、最重点をおいて、プロレタリア日本革命の反革命に侵出してこざるを得ないこと。又、民族解放・社会主義と労働者国家の革命勢力は、自国・自ブロックの革命の防衛と世界革命の完遂の觀点からして、プロレタリア日本革命は、この勢力にとって死活の地位を占めるが故に、至上命令的に支持・支援をすること。又、社会帝国主義ソ連も、プロレタリア日本革命の完遂は自らの社会主義の危機につながるが故に、國際革命勢力と対決し、米帝と結託し、国内的には、日共、協会等と結託し、帝国主義と社会帝国主義のブロックを組み、プロレタリア日本革命を反革命压殺せんとすること。

従つて、プロレタリア日本革命はその生成・発展・勝利の全過程にわたって、帝国主義・社会帝国主義と闘い、民族解放社会主義革命と革命中国を始めとする労働者国家の革命勢力と固く連帶して、世界プロレタリア独裁・三ブロック革命の勝利・プロレタリア世界革命戦争の勝利をめざして、世界共産主義に向けて、徹頭徹尾推進してゆかざるをえない、国際的性格をもってゆくこと。又それ故にこそ、賃金奴隸制の完全廢絶、プロレタリアの経済的隸從の廢絶、反帝反社帝のプロ共産主義革命（戦争）の路線と世界党の建設、世界党—世界赤軍—世界革命戦争統一戦線の陣型は決定的な意義を有していること。これがプロレタリア日本革命の国際的性格であること。

第二は次のことである。

日本帝国主義は、高度に発達した資本主義国であり、戦前の如き寄生的地主制としての半封建的土地所有関係は戦後革命と米帝の政策の下で一掃されて基本的には存在しないし、また米帝の権力体系の日帝の領土への内含は、国内に於ける米資本主義の生産関係、ウクラウド¹¹ 売弁經濟を經濟的基礎に置いているのではなく、一方では民族解放・社会主義勢力と中・朝・ベ労働者国家の反革命ソ連社会への牽制という側面と、他方では日本革命への圧殺という側面からなりたつ、すぐれて共同の反革命階級利益に基づいておこなわれていること。我々は以上の基本觀点から、現在の日本帝国主義を、米帝に政治・軍事面、部分的には經濟面でも――これは國際面に限られるものであるが――従属している、従属帝国主義と考える。従って、日帝の権力の複合性についても、”米帝に半ば占領された” 売弁經濟に基礎をおく米帝権力との複合とは把えない。日本資本主義の権力があくまで主であり、米帝の権力はあくまで特殊で従であること。

以上からして、プロレタリア日本革命の根本的性格は、プロレタリア独裁の樹立による反帝反米の社會主義革命であること。決して、日共官本派等の述べる米帝に半ば占領された國の反米帝の民族民主主義革命でもなければ、いわんや純粹中共派（五一年綱領派）の「完全に占領された」反米愛国革命でもない。かかる二段階戦略党派に共通点としている点は

――この民民革命を新しい形の革命という商標をつけなおして人民民主主義革命としてゴマかしている新手の二段階戦略も全く例外ではない――労働者階級や半プロ貧農の立場に立たず、「民族的」課題を階級矛盾より優位と考え中小資本や豪農・上層中農資本主義、貸地地主等を革命の同盟軍と考えが故にプロレタリア革命勢力の利益を抑圧すること、最後にはプロレタリア社會主義革命に敵対する可能性があること。既に日共は、五〇年代に於てこの二段階戦略への固執を経て、プロレタリアへゲモニーを放棄し、小ブル日和見主義に転落していくこと。

但し、プロ独社会主義革命派は、他人労働を搾取していく生産手段を所有する小ブルジョア勢力をプロレタリア革命の同盟軍と考え、社會主義經濟の優越性を実証する中で、除々に教育等を通じて生産手段を集團化・共有化し、社會主義經濟に引きいれてゆく段取りをとり、トロッキー主義の小ブル社会主義革命派の如く「一挙的社会主義化」の空想プランは排す。

又、資本家、富農、地主勢力の内部に於ける經濟的地位、政治的地位等から生じる内部矛盾をプロヘゲの立場で利用する、中立化戰術を採用することはあること。

八三▽ プロレタリア日本革命に於ける 階級配置

① プロレタリア日本革命に於ける階級敵は、生産手段を

私有し、他人労働（プロレタリアート）を搾取収奪している資本家階級である。又、自分は働かないのに土地を私有することによって、資本家階級に土地を貸し与え、プロレタリアートから搾取した剩余価値の分配に無償であづかっている地主勢力である。金融資本、独占資本、大中小資本、地主（近代的地主）、富農、上層中農（一〇人以上のプロを搾取している）、これ等の階級敵の生産手段と土地は、プロ独権力の下に没取されたプロ人民の共有財産とする。

自分や家族も働いているが、一人未満の雇用労働力を雇用している点で、中農（中層、下層）や零細資本も同じくプロレタリアートの階級敵である点には全くかわりない。しかし、資本量やその政治的性格等によって、生産手段の没取はめざされねばならないにせよ、プロレタリア革命勢力に引きつけ反革命勢力から切り離すべく、生産手段の直接や事後払いという方法での買上げとか、經營上の地位を保障するとか、その他の妥当な措置が配慮されねばならない。この点で、中農や零細資本は、この中立化戰術の格好の対象である。

以上の經濟上の規定を加えた上で、我々のプロレタリア革

命勢力の敵勢力は、資本家・地主、と資本家地主勢力の手先たる反革命・反動勢力たる天皇とその官僚勢力、政治家、官僚、警察官、軍人、学者、文化人、科学者、宗教家、御用労働運動家・職制層、芸能人、右翼、反革命ヤクザその他の反革命反動勢力と米軍である。

② プロレタリア日本革命の主力軍は、労働力を売る以外に生きてゆくことが出来ない労働者階級であること。資本家の剩余価値や超過利潤のオコボレをあづかり、小ブル化している一部の上層や職制層や労働貴族等は、主力を担いきれないと。プロレタリア革命を最後まで担いきる主力は、プロレタリア階級の中でも、組織をもち団結し一定程度經濟的社會的政治的地位を保持している賃金奴隸の中層労働者層や、組織をもたず本工労働者にもなりきれない臨時工、社外工、下請工、出稼ぎ労働者、季節労働者、都市窮民等、下層労働者層である。

③ プロレタリア革命の同盟軍は、生産手段を所有しているがその労働力は家族までに限られ、他人労働力を搾取していない小ブル階級、半プロレタリアート貧農・小農・工業・農業・商業その他の部門の小生産者、小經營者、その他プロレタリア革命を支持・支援し犠牲をおしまない知識人、学者、教育家、宗教家、学生、医者、官僚等の職業の人々。この同盟軍には、プロ独権力は、社會主義經濟が利益になることを実証し、教育と説得をもってその生産手段の集團化、社會主

義化を除々におこなつてゆく。

④ プロレタリアの前衛政党たるプロレタリア党は、革命の主力軍日本隊、プロレタリアートに依拠し、その同盟軍たる小ブル階級としきり同盟し、資本家地主勢力の掃滅のために闘う。

△四△ プロレタリア日本革命の綱領と

その諸問題

1 究極的な最大限綱領・一国的社會主義プロ独の中間綱領・最小限綱領の三層構造の綱領の必要性

プロレタリア日本革命は、日本資本主義、國際帝国主義の性格からして、世界共産主義・世界社会主義・世界プロレタリア独裁→一国社会主義・一国プロレタリア独裁→権力奪取をめざした最小限の要求闘争とこれを通したプロレタリア党の建設の段階、の基本的な三段階の發展行程を跡らざるを得ない。

我々は、資本主義批判の成果とマルクス「ゴータ綱領批判」やレーニンの「國家と革命」の原則的立場に立脚しつつ、又、過渡期世界の共産主義革命運動の教訓を踏えつつ、この各三段階を正しく規定特徴づける必要があること。

世界共産主義・世界社会主義・世界プロレタリア独裁の究極的な到達段階は、抽象的一般的に、しかし厳密な論理性を得

つまり、我々プロレタリア党は、帝国主義を最後的に打倒したのちの（—社会帝国主義を打倒したのちの—）、世界共産主義・世界社会主義・世界プロ独の究極的な最大限綱領と、帝国主義と未だ闘争過程にある、つまり世界革命戦争の途上にある過渡期世界の社会主義とプロ独期の政綱、権力奪取以前の最小限綱領の究極的最大限綱領→過渡期世界の社会主義・プロ独の中間綱領→最小限綱領の三層構造をもった綱領を必要とする。このような三層構造をもった立体的な一空間的時間的要素を加味した—綱領が正しく、又、実際に必要とされている理由は、以下の点である。

② 新左翼運動はようやくにして、綱領を獲得しなければならない段階に到達したが、マルクス資本主義批判宣言

「ゴータ綱領批判」等の抽象的理論的諸命題を、空間的歴史的諸要素を組み入れて、また過渡期世界の共産主義革命運動の諸経験を組み入れつゝ、自らの綱領に適用。発展・豊富化することが出来ていはず、理論と実践が、乖離し、原則一般の教条的振りまわしさはあっても、世界革命や世界プロ独一般の空

論的強調はあっても、過渡期世界の現実と経験に即応した実践的な綱領は全く提出し切れず、混乱したり、一面的になつたり部分的であつたりしていること。

⑥ 今一つは、日共は、日本諸毛派の如く「人民民主主義革命から社会主義革命に連続的に発展する」と称しつつも、過渡期世界全般の綱領問題に応えきれず全くの一国主義で、世界的な空間的要素は忘れ去られ、また「革命の前途」なるものは完全に忘れ去られ、文字通り最小限綱領と最大限綱領に独社民の如く万里の長城を築いていつつも、全く泰然としていること。また、改良主義・修正主義者がノサバリかえつているにも拘らず——日共一二回大会綱領報告集やこの猿真似「日本労働党」の日和見主義綱領をみよ！——何んら、革命派の中でまともな批判がなされていない現状がある点で。

2 世界共産主義・世界社会主義・世界プロ独——究極的な最大限綱領

① 世界共産主義

資本主義の世界的発展は、生産の社会化を国境・民族の制約を越えつつ国際化し、单一の世界的生産力へと発展してき

たし、現代帝国主義はかかる事態を極限までおしあげてきた。とともに、資本制生産関係に基づく私有財産制、ブルジョア

民族国家の体系は、賃金奴隸制の災禍、工業と農業の矛盾、

プロレタリアートと農民の矛盾、精神労働と肉体労働の分裂、

発達した資本主義国と遅れた発展途上国との矛盾、を拡大し、

もって大雑把に特徴付け、一国社会主義・一国プロ独の過渡的中間段階に關しては、その段階の特徴を抽象的だが理論上は厳密に規定しつつ、一国プロ独に關してはその第一段階は武装蜂起後の直接の実政綱となる以上、極めて具体的的実的に確定し、更に権力奪取をめざした最小限要求課題に關しても明瞭に提出しなければならない。

かかる資本制分業関係の対立物、世界的な共産主義生産關係の基礎と世界プロレタリアートの前進、世界党—世界赤軍—世界革命戦争統一戦線の団結を生み出さざるを得ない。一国社会主義或いは地域的の社會主義建設の矛盾を深めると同時に、これを世界共産主義として揚棄する共産主義継続革命（＝根拠地化）を強めさせざるを得ないし、そうでないならば、資本主義に逆行し社会帝国主義に転落する矛盾を生み出した。

かくして、現代過渡期世界は、その巨大な单一化しつつある世界生産力からして、更には、世界的、一国的資本制分業關係の矛盾の深まりからして、この世界的、一国的資本制分業關係を爆発廃絶し、資本主義生産力を共産主義生産力に改造し、生産手段を世界單一管理機構に集中し、全世界プロ人民がこれを共有し、生産と分配を全世界プロ人民の福祉とその全面発達に向けて、計画的に組織化する共産主義生産關係を創出することを可能とする。

世界共産主義は、自然を人類が征服し（と同時に人間を自然化する高い生産力を獲得し）、「労働が生活の第一の喜びとなり」「能力に応じて働き、必要に応じて受けとり」「精神労働と肉体労働の矛盾、都市と農村の矛盾、プロレタリアと農民の階級的差異から生じた矛盾を消滅し」男女の眞の平等、諸民族の完全な平等が実現し、諸差別が消滅し、発達した資本主義国と発展途上国との矛盾が消滅し、「一人が万人の為に万人が一人の為に存在し」「人間の諸能力が全ゆる方面に

全面的に開花する」等の諸特質をもつた社会である。日本・世界プロレタリア革命の究極的目標はこのような社会の創出である。

② 世界社会主義

マルクス「ゴータ綱領批判」に展開された、共産主義の低い段階に照應する、世界共産主義の低い段階を指す。生産手段は世界管理機構に集中され、世界プロの人間に共有化され、資本主義やそれ以前の生産関係は一掃されているが、従って階級は消滅しているが、又、生産の分配は共産主義的に組織化されているが、資本主義的労働の名残りとしての「労働に応じた分配」の「平等」つまり共産主義的不平等が残存し、未だ上記の、資本主義二大分業や男女の矛盾や、発達した地域と発展途上地域との矛盾が存在し、民族共同体相互の矛盾が存在し、完全には共産主義の諸特質を充していざ、これ等の矛盾を克服する共産主義継続革命が持続している社会。

③ 世界プロレタリア独裁社会

全世界で国際帝国主義と資本主義反革命諸勢力の主要な権力が解体され消滅し、武装解除された段階で、世界党—世界赤軍をもって世界プロレタリア独裁を貫徹し、残存する資本主義勢力や資本主義生産関係や、それ以前の生産関係を暴力的政治的に一掃し、世界単一管理機構の下に集中し、生産手段を全世界プロレタリア人民が共有化し、賃金奴隸制を廃絶し、ブルジョア国家を廃絶し、民族共同体を現出させ、全世界は、現に中国社会として出現している。

だが、この社会主義は種々な歴史的・国際的諸要因を捨象して抽象されたものであり、実際上においては客観的諸条件として、①国際帝国主義との競合、内部干渉や反革命、⑤極めて生産力が低く、また一国での生産力の拡大は限界があること、②資本主義社会から生れたばかりであり、種々な資本制社会の母斑が残存しており、生産手段の共有化や单一の共産主義労働の組織化も、これ等の最大の担い手たる革命的階級たるプロや人民が政治的に正しい路線によって正しく指導されていない場合は、生産手段共有化は單なる国有化に終り、生産手段の管理者が資本家化し、資本制関係が復活し、国家資本主義（内部に部分的には、変則的な資本主義的生産や競争を含む）逆行してしまうことがある。この逆行をその国の党が正当化し路線化した場合、ソ連の如く社会帝国主義に変質し切ってしまう。正しい指導路線が保障されていても、生産手段の全人民的共有化は不完全で、部分的には生産関係の面で、一般的には上部構造の面で、完全には階級は消滅していない段階の不純な社会主義社会にならざるを得ない。それ故、正しい世界革命の根拠地化と二つの道の階級闘争の継続

従つて、対外的にプロレタリア独裁が必要不可欠なばかりでなく、対内的にもプロレタリア独裁が必要なところの極めて低い段階の不純な社会主義社会にならざるを得ない。それ故、正しい世界革命の根拠地化と二つの道の階級闘争の継続

界の生産力と生産と分配・消費を共産主義的に組織化し、除々に世界社会主義に接近してゆく。

この段階は、既存の一国社会主義や地域的社會主義国は、世界プロレタリア独裁社会の下に再編・包摶される。また社会帝国主義国は、その政治社会革命を経て、同様に再編・包摶されてゆく。

世界プロ独社会の芯棒は、世界党と世界赤軍である。

3 一国社会主義・一国プロレタリア独裁——中間段階の綱領

① 一国社会主義（地域的社會主義）

国際帝国主義が全面的に一掃されない段階で、資本主義と共産主義が激しく争っている段階では、プロレタリア政治革命を実現したプロレタリア独裁社会は、社会主義社会に到達し、これを存続させることが出来ないのだろうか？世界プロレタリア独裁社会以前のプロレタリア国家は、全てプロレタリア独裁社会でなければならないのか？理論的には、当然にも、プロレタリア独裁社会は対外関係を捨象した場合、生産手段を共有化し、全労働を单一の共産主義的労働として組織し、生産と分配・消費を共産主義的に組織化することによって、社会主義社会に生長転化してゆくことは可能である。又ここでは本来的には、階級・階級闘争は消滅しているといつても過言ではない。実際、生産手段を国有化（＝集產化）することは実際可能であるし、全人民的所有制にまでは昂ま

るが、一步一歩、階級が消滅し二大分業や差別が消滅し、「能力に応じて働き、必要に応じて受け取る」共産主義社会の萌芽がめばえてゆくこと。一国社会主義は国際帝国主義が打倒された段階で、除々に世界プロレタリア独裁社会に再編・包摶されてゆく。

② 一国プロレタリア独裁

一国社会主義の前段には、ブル独権力を打倒・解体・掃滅した後、樹立されるプロレタリアの独裁権力（プロレタリア、半プロレタリア、貧農を主力とする）の支配に基づく、一国プロレタリア独裁国家が存在しなければならない。

この社会に於けるプロレタリア独裁権力の任務は、コンミニーン四原則に立脚しつつ、④残存する資本主義・反革命勢力の最後的な武装解除と資本主義生産関係の掃滅をめざすこと、⑤生産手段をブル独に依拠して全民（集団）所有化し、单一の共産主義労働力を組織して生産・分配・消費を計画的に運転し、社会主義經濟を創生してゆく、⑥小ブル諸勢力を教育と説得を軸にしつつ、集団化し社会主義經濟に引き入れゆく、⑦全体的に、資本主義經濟を改造し、社会主義經濟への準備と接近を開始すること、⑧世界革命の根拠地として国際革命戦争を支持・支援し、世界プロ独・世界社会主義・世界共産主義の究極の目標に向けて前進をやめない。このよ

て、最初の政綱として、次の政策綱領を我々は掲げる。

4 日本プロレタリア独裁政府の第一段階の政策綱領

(一) プロレタリア独裁権力

① プロレタリア独裁権力は、プロレタリア階級と半プロレタリア、貧農小農、その他の零落しつつある小ブルジョア階級と革命者を唯一の基礎としていること。このことによつてプロ独國家は、地方自治制と自治地域制を広げて実現していること。

② プロレタリア独裁権力は、その階級性を公然と認め、搾取者の抵抗を弾圧することを目的とし、資本の抑圧から労働を解放することと矛盾するようななどな自由も欺瞞であるという見地にたつ。

プロ独権力は、搾取者たる資本家・地主・富農・上層中農や零細資本・中農（下層・中層）からその生産手段を没収し、彼等を収奪する。ただし、経済的力が弱く、搾取度も低い零細資本、中農（下層・中層）や、その他でも政治的性格によつて、直接暴力的に生産手段を没収したりせず、買い上げたりする場合がある。従つて、ブルジョア的の権利や自由を絶対的なものと考える根深い先入観と思想的にたたかうとともに、被搾取者はなんらかの仕方で政治的権利や自由が制限されたり、剝奪されたりするのは、搾取者との闘いの為に必要なものとして一時的なものであることを説明する。

③ ブルジョア民主主義が、軍隊と大衆を切り離し、大衆と対立させ、兵士に政治的諸権利行使することをばみ、軍隊を有産階級の道具とするのに反し、プロ独権力は労働者と兵士の完全な同権と利益の一一致にもとづいて、労働者、半プロ、貧農、下層小ブルとの結合を促進させる。

④ 革命の指導的階級たる都市プロレタリアートにその自觉を促進し、狭い職場的利益や職業的利益の拝跪を克服し、農村プロレタリア、半プロレタリアならびに貧下層中農と連帯せしむるよう、する。

⑤ プロ独権力と党は、官僚主義と断乎闘争し、この害悪を克服する為に、

⑥ ブルジョア民主主義が、軍隊と大衆を切り離し、大衆と対立させ、兵士に政治的諸権利行使することをばみ、軍隊を有産階級の道具とするのに反し、プロ独権力は労働者と兵士の完全な同権と利益の一一致にもとづいて、労働者、半プロ、貧農、下層小ブルとの結合を促進させる。

⑦ 革命の指導的階級たる都市プロレタリアートにその自

覚を促進し、狭い職場的利益や職業的利益の拝跪を克服し、農村プロレタリア、半プロレタリアならびに貧下層中農と連帯せしむるよう、する。

⑧ プロ独権力と党は、官僚主義と断乎闘争し、この害悪を克服する為に、

⑨ プロ独権力の成員に、国家統治の為のきまつた仕事を参加させ、又、プロ人民の労働に参加する義務を負わせること。

⑩ プロ独権力の成員に、国家統治の為のきまつた仕事を参加させ、又、プロ人民の労働に参加する義務を負わせること。

⑪ このような仕事をつぎつぎにとりかえ、しだいに全ての行政部門にわたせること。

⑫ 一人残ず勤労人民を国家統治の仕事に参加させてゆく。

⑬ これ等の措置を完全に実行し、官僚機構を精奥にして、かつ簡素化する。

(二) 外交とプロレタリア国際主義の分野で

⑭ プロ独権力は、権力奪取後も引き続き、帝国主義と社会帝国主義を地球から一掃し、究極の最大限綱領を実現する為に、米帝その他帝国主義勢力と闘い、社会帝国主義と闘い、

民族解放・社会主義の勢力及び中国・朝鮮・ベトナム・キューバ等の世界革命勢力と連帶し、プロレタリア世界共産主義革命戦争の根拠の役割りを担なう。

米帝と米帝権力体系の全てを即時に一掃し、反人民的反革命的諸条約を全て廃棄し、民族解放、社会主義の勢力に全面的な支持、支援をおこない、アジア労働者国家とのプロレタリア国際主義に基づく、平等互恵の外交を開拓し、全ゆる面での融合を強める。

プロレタリア党は、世界党第五インターの具体化に努力を傾け、日本赤軍を世界赤軍に昂めてゆく努力をする。

(三) 民族関係の分野で

⑮ ⑯ 資本主義勢力を打倒する為に、民族のプロレタリアー

ト及び、半プロレタリアの相互接近をはかる。

⑰ 被抑圧民族が、域内外に於て、抑圧してきたことから生れている被抑圧民族の勤労大衆の不信に対し、この不信を取り除く為に、被抑圧民族の特權を廢止し、諸民族の同権を実現し、被抑圧民族の国家的分離の権利を承認する。

⑱ この為の過渡として、連邦的結合があることを承認する。

⑲ 分離の担い手については、プロ独権力と党は歴史的具体的に分析し決定する。

⑳ いざれにせよ、抑圧民族のプロレタリアたる日本プロ

したが、経済的条件、ブル独の制限その他の理由からしてこれを保障せず形骸的なものとしたのに對して、プロ独権力はブルから建物、印刷所、紙の在庫等を收奪し、これを完全に労働者とその諸組織の使用にゆだねる。プロ独権力は、プロ人民にその自由を保障する物質的可能性を保障する。

④ ブルジョア民主主義は、性、宗教、人種、民族等に拘りなく人々は平等であると宣し、又、封建的身分關係は存在しないと宣言したが、これは欺瞞に過ぎず、實際は、帝国主義は、この不平等と差別を利用し、プロ人民を支配した。プロ独権力は、法の分野のみならず、全ゆる生活の分野でこの同権を実現する。とりわけプロレタリアート・農民のおくれた層の間のこの痕跡を徹底的に一掃する為に、思想教育活動を開展する。プロレタリア党は、この先頭にたつ。

男女平等を實質的に保障し、時代遅れの家政をコンミューン家計、公衆食堂、中央洗濯所、託児所等々でおきかえることによって、そういう家政の物質的負担から婦人を解放する。選挙やりコール権を保障し、他方、議会制度の悪い面たる立法と司法の分離、代議機關の大衆からの隔離、等を廃止する。又、この権力の基礎単位たる選挙単位、国家の基礎を、生産単位（工場）におき、地域単位を排し、國家と大衆の結びつきを強める。又、公職者の責任制、報告義務制を実行する。

レタリアは、被抑圧・非同権民族の勤労大衆のもつ民族感情に対し、慎重な態度をとり特別な注意を払う。

(四) 軍事の分野で

①プロレタリア独裁の道具としての赤軍は、プロレタリア、半プロレタリア、貧農、零落小ブル等の革命的階級の出身者によって編成されなければならない。赤軍は、世界共産主義と世界プロ共産主義革命の勝利をめざす世界赤軍として組織されねばならない。これは社会主義社会（世界）に於てのみ全人民的な社会主義的民兵に転化されてゆく。

②全てのプロレタリアとその同盟軍に対して、広範な軍事訓練を施し、学校に適当な学課をもうける。

③赤軍の軍事訓練と陶冶は、階級的團結と共産主義教育にもとづいて行なわれる。軍事指揮者の他に、献身的な共産主義者からなる政治コミッサールが配置し、内的な思想的紐帶と自覺的規律をつくり出す為に、各部隊内に党の細胞をもうける。

④純然たる兵営訓練の期間をできるだけ短かくし、兵営を兵営学校や軍事政治学校の型に近づける。軍隊をプロ人民に最大限接近させる。

(五) 司法の分野で

⑤⑥「人民による裁判官の選挙」というかわりに、「勤労者のみによる勤労者のうちからの裁判官の選挙」という

(六) 国民教育の分野で

的普通教育と総合技術教育（生産部門についての知識を理論と実地のうえで授ける）を実施する。

⑦社会教育を改善し、婦人を解放する為の託児所、幼稚園、保育園などの就学前児童の為の施設を保障する。

⑧母国で教え、男女共学制をもとにし、無条件で非宗教的で、授業と社会的・生産的労働とを緊密に結合し、共産主義社会の全面的に発展した成員を養成する為の、統一的な労働学校の原則を完全に実現してゆく。

⑨全ての生徒に国家の負担で、食事・衣服・学用品を支給すること。

⑩共産主義の思想を深く抱いた教育者の新しい成果を養成する。

⑪教育事業に勤労住民を積極的に参加させる。

⑫国家が労働者農民の独学と自修を全面的に援助すること。（図書館、成人学校、人民クラブ、人民大学、講演会、講演、映画、画室などの校外教育設備網をつくり出す）

⑬一七才以上の市民の為に、一般総合技術知識と結びついた職業教育を広汎に發展させる。

⑭勉学を希望する人々、何よりもまず労働者に上級学校の講義を広く公開すること。上級学校で教授する学力をもつてゐる全ての人間に、上級学校の教授活動に参加させれる。プロレタリア・農民が、上級学校を利用出来るようにする為に、学習者に物理的保障を与える。

階級的スローガンを掲げ、これを実行し、裁判官の選挙は全ての点で男女に平等の権利を与えて行なわれる。

⑮司法権の行使にプロと貧農の広汎な大衆を参加させる為に、順次交替制の臨時の陪審判事を裁判に立ちあわせ、その名簿の作成には労働者の大衆組織が参加する。

⑯裁判制度の簡素化と単一化を通して、人民に利用されやすいようとする。

⑰刑罰の性格を根本的にかえ、執行猶予を広範囲に実行し、刑罰手段として公けの請責を採用し自由を剥奪するかわりに、身柄を拘束しない義務労働を課し、刑務所のかわりに感化施設をもうけ、同志裁判所の敢行を適用する。

⑱全ての勤労人民に裁判官としての義務を遂行させ、刑罰制度を教化手段の体系におきかえる。

(七) 宗教関係の分野で

⑲教会と国家の分離、学校と教会の分離を実現し、搾取階級と宗教宣伝団体との結びつきを完全に破壊することをめざして努力し、勤労人民を宗教的偏見から現実に解放するのを助け、もっとも広汎な科学的・啓蒙的宣伝と反宗教宣伝を組織する。この場合、信仰をもつものの感情を侮辱することは宗教的情熱をたかめる結果になるだけであるから、そういううことは細心の心遣いをして一切避ける。

(八) 経済の分野で

⑳①ブルジョア・地主を収奪し、生産手段と流通手段をプロ独権力が所持し、即ちプロ人民が共有する。これをより徹底的に最後まで貫徹する。

㉑革戦時であるが故に、より一層生産力を上昇させることに適切な措置をとることは重大であること。

㉒小工業主に社会主義経済に引き入れるべく、注文を出したり金融的便宜を与える、集団化を促進する。

㉓社会化された工業の組織機構の第一に主要なものは、労働組合である。労働組合は職場的狭さを越え、生産部門の全てを組織するように努力しなければならない。労働問題は、全経済の管理体系を掌握する。このことをも

つて、中央国家行政—国民經濟—及び広範な勤労大衆の
あいだに切っても切れない結びつきを確保する。また、
労働組合が経済の運営に参加することによって、プロ独
権力の経済機構の官僚化と闘う主要な手段であり、これ
を通して、生産の結果に対する人民統制を組織すること
ができる。

⑤労働組合がプロ独経済に参加することを通して、全労
働力を種々の地域や部門に正しく配置し、再配置してゆ
く。

⑥労働の資本主義的組織化にかわって、社会主義的労働
を組織化するには、勤労者の同志的規律、自主活動や責
任感や労働生産に対する極めて厳密な相互統制にもとづ
いて、新しい社会主義的規律をつくり出すことが必要で
あり、これにもとづいて生産力を上昇させ、社会主義的
生産様式をつくり出すようにする。このような任務を主
要に担なうのも労働組合である。

⑦ブルジョア層にはどんな小さな政治的譲歩も行なわれ
ないが、ブルジョア専門家に学ばないでも利用しないで
も、ブルジョアが資本主義を一挙に克服できるわけで
はないので、無知やうぬぼれを排し、科学や技術専門家
を利用する。ブルジョア専門家を同志的共同労働の環境
に引き入れることによって、資本主義によって分離され
た精神労働と肉体労働の相互理解と接近を促進させる。

を、農業に於ける共産主義建設の為に、農村に引き入れ
る。

⑧半ブルジョア、貧農、或いは下層中農に依拠し、農
村に党細胞や貧農組織、労働組合を創設し、彼等を極力
都市プロレタリアに接近させる。

⑨富農や農村ブルに於ては、彼等の搾取者の復活の企
図を断乎として紛糾しそれを弾圧する。中農に対しても、
現実的な社会主義経済の利益と教育と説得によって、ブ
ルや富農から切り離し社会主義建設の活動に引き入れて
ゆく。

(一〇) 分配の分野で

⑩

商業を計画的な全国的な規模での組織された生産物
分配活動に置きかえる。目標は全住民を消費コンミューーンの
单一の網の中に組織化することである。この消費コンミュー
ーンの中核には、一般市民協同組合や労働者協同組合をおき、
このブルジョア的大衆分配機構をプロレタリ
アの指導する消費コンミューーンに改造すること。

(一一) 貨幣制度と銀行事業の分野で

⑪

国立、民間銀行等、全てを共有化し、プロ独権力がこ
れを独占し、これを合併し单一の人民銀行の中央から末端へ
の系統に一本化し搾取者の政治的支配の道具であつた銀行を
プロ独権力の道具として、経済的変革の道具にかえる。又、
銀行の機構をプロ独國家の統一的な記帳と全般的会計の機構

⑫プロ独権力は、科学を発展させ、これを生産に近づけ
る我的の政策を実行する。

(九) 農業の分野で

⑯①地主、富農、上層中農等の没収した土地をもつて、社
会主義農業の組織化に着手する。

⑰社会主義的大農場であること。⑮共同耕作の為の団
体や組合を組織すること。⑯未作付地の作付を組織化
する。⑰農作の向上の為に、プロ独権力は、農学者陣
を組織化する。⑯大規模な共同經營のために、農耕者
の完全に自發的な農業コンミューーンを支持する。

⑱農耕労働の生産性の為に。

⑲農作物の加工に従う農協のプロ独権力による再編と
改組。⑳土地改良組織を大がかりに実行すること。㉑
貧・中農（下層）に対する農具の賃貸所の設置、農
地試験場、模範耕地などを組織化すること。㉒農地の
改良、等をプロ独権力は保障する。

㉓小農民經營に対して。

㉔農民の土地用益を整備すること、㉕農民に優良種子
や人造肥料を供給する、㉖家畜類の改組、㉗農学知識
の普及、㉘農具の国家による修繕、㉙農具借貸所、農
地試験場、模範耕地などを組織化すること。㉚農地の
改良、等をプロ独権力は保障する。

㉛都市と農村の対立に対し、工業と農業のバランスのと
れた再生産関係を保障し、農村に都市労働者の広汎な層
に転化することによって、銀行事務を根本的に変化させ、單
純化し、これを中央会計事務所に改組すること。

㉜生産と分配の共産主義的組織化が完全ではない、プロ
獨期では、私的生産、私的所有、私的交換が残存しているが
故に、貨幣を廢止することは不可能である。それ故、資本主
義分子はこの貨幣表章を利用して投機や金もうけや労働者の
略奪をはかり、資本主義を復活せんとする。これに対してプロ
独権力は銀行の国有化を武器にして、非現金決済の範囲を
拡大し、人民銀行への貨幣の強制預金や家計手帳を実施し、
小切手や生産物を受けとる権利を示す、短期の証票等を貨幣
に代表させる等の貨幣廢止の諸措置をとる。

(一二) 財政の分野で

㉝

㉞国家財政の源泉は、その初期は、資本家からの強制的
収奪としての賦課金を徵収する制度から除々に累進的な所得
税および財産税に移行し、この収奪が底をつけ時代おくれにな
った段階で種々な国家独占企業の所得の一部を直接に、國
家の収入に充当する。

(一三) 住宅問題の分野で

㉟

㉞資本家屋主の所有する家屋の没収、労働者人民への分
配、労働者大衆の住宅事情を改善すべく、人口の密集と不衛
生を一掃し、不良住宅と古い家屋を取り払い労働者大衆の新
しい家屋を建設し、労働者の分散居住を実現するために極力
努力する。

(一四) 労働保護と社会保障の分野で

② プロ独権力の下では、労働保護の分野でのプロと党的の最小限綱領は実現できる。

① 労働時間を最高六時間とする。

② 一八才未満の者、とくに有害な産業に従事する者、並びに鉱山労働者については、労働日は五時間を越えてはならない。全ての労働者に対し、毎週六十時間程度の休息を与える。時間外労働は原則として禁止される。十六才未満の児童と未成年者の労働を使用することを禁止する。

③ 全ての婦人と十八才未満の男子に対しては、夜間作業、とくに有害部門での労働、並びに時間外労働は禁止される。

④ 婦人は、産前、産後十二週間の就業を免除され、その全期間、その給料の全額を受けとり、無料の医療援助をあたえられる。婦人労働者は乳児に哺乳する為に三時間毎に毎日四十分一時間の休憩を許され、哺乳期間の母親には追加の手当が与えられる。

⑤ 労働組合委員会の選挙によって、労働監督機関と衛正監督機関をもうける。

⑥ 労働者の労働能力喪失や、失業に対して、雇い主と國家が負担し、被保険者が完全に自主的管理し、労働組合を広範に参加させた完全な社会保障を実施する。

- ① 雇用や解雇の問題の決定に労働者組織を参加させること。一年以上勤続した、全ての労働者に対して一ヶ月以上の年次有給日数をあたえること。
- ② 労働組合が作成した賃金率にもとづいて、国家が賃金を規定すること。労働組合とプロ独権力の下に、労働力の配置や登録にあたる部門をつくり失業者に職をあたえる義務を課すこと。
- ③ 労働者の中から、労働者自身が自発的に選出する方法で労働監督制度を組織し拡大すること、この制度を小工業や家内工業に及ぼすこと。
- ④ 労働保護を全ゆる労働部門（建築労働、陸上運輸、家事使用人、農業労働者）に及ぼすこと。
- ⑤ 年少者の作業を完全に廃止し、未成年者の労働日をさらに短縮すること。
- ⑥ 社会保障の分野では、革命や自然災害の犠牲者に対するだけではなく、変則的な社会関係の犠牲者に対しても広汎な国家の援助をおこなう。全ゆる種類の寄生性と怠惰に対して断乎として闘い、労働の軌道から脱落した全ての人々を労生活にかえらせる。

(一五) 国民保健の分野で

② ① 薬剤事業、大私営医療施設の国有化、医療従事者の義務労働制の施行。

③ 住宅地の衛生改善、科学的で衛生的な基礎のうえでの

公共給食、伝染病の発生と蔓延に対する予防措置を講じる。より進歩的な衛生法を制定すること等の、プロ人民の利益になる衛生措置を徹底して実行する。

④ 社会的疾患（結核、性病、アルコール中毒など）の防止。誰でも利用できる無料の優秀な医療扶助の供与。

5 我々の当面の闘い（一最小限綱領）

(一) 日本帝国主義の侵略・抑圧・反革命の強化と日米安保体制の再編強化と闘い、社会帝国主義の反革命支配と闘い、全世界プロレタリア人民と連帯する（軍事外交とプロ国際主義の分野で）。

① 自衛隊の拡大強化・核武装化・海外派兵・国内反革命出動支配、及び、軍事経済・産軍複合体制の拡大紛碎！日本帝の米帝と結託した一切の反革命・侵略・抑圧策動紛碎！② 自衛隊での兵士の虐待に反対し、政治活動の自由を含む全ての民主主義的な要求と闘争を断呼支持して闘う！③ 軍国主義を鼓吹する一切の思想的・政治的宣伝活動に反対して闘う。排外主義、社会排外主義と断乎闘い、プロ人民のこの方向での墮落を阻止する。

④ 米帝の全ゆる反革命支配を紛碎し、安保条約をはじめとする全ての反人民的諸条約に反対し、これを破棄する為に闘う。

⑤ 日本から米帝を叩き出し、軍事基地および軍事施設を一掃する為に闘う。沖縄をはじめとする米帝の反革命支配を

廃絶する。

⑥ 国後・択捉・歯舞諸島・色丹島を、排外主義、社会排外主義と闘いつつ奪還する（この点は討論を要する、全体討論に従う）。中華人民共和国との「平和条約」、諸実務協定の締結、友好関係の一層の増進、朝鮮民主主義人民共和国、ベトナム民主共和国との国交回復と友好関係の強化のために闘う。

⑦ 米帝を盟主とする国際帝国主義と社会帝国主義の一切の国際的・国内的・侵略反革命・抑圧と闘う。ソ連の提唱する「アジア安保」に反対する。

⑧ アジアをはじめとする、国際プロレタリア・被抑圧民族人民の闘いを断乎支持して闘う。民族解放・社会主義支持、プロレタリア国家の世界革命の根拠地化・継続革命支持、社会帝国主義打倒！プロレタリア世界革命勝利、世界革命戦争貫徹。世界党を建設しよう！世界党・世界赤軍・世界反帝反社帝統一戦線万歳！

⑨ 日本帝国主義権力のファシズム化と政治反動を紛碎し、人民の政治的自由と民主主義を実現する為に闘う（権力と民主主義の分野で）。

① 小選挙区制、憲法改悪、破防法、刑法改悪等、弾圧諸立法の改悪強化、司法反動化と闘う。新大管法紛碎。君が代吹奏、日の丸掲揚、日教組への弾圧、教育

勅語の復活等の教育の反動化と闘う。

③天皇制の復活、及び、その政治的利用等、全ての政治反動と国家機構のファンショ化に反対して闘う。

④司法の反動化・拘置所・刑務所の収容者の奴隸的待遇を紛糾する。政治犯の即時釈放、犯罪者といわれる人々の棄民化・廃人化攻撃と闘い、彼らを反帝反社帝統一戦線の構成員として連帯する。労働の軌道から脱落した人々を勤労生活にたちかえらせ階級戦士として組織化する。

被差別部落大衆に対する一切の差別と抑圧反対。

婦人にに対する一切の差別と反対。

在日朝鮮人、中国人をはじめとする全ての在日外国人に対する一切の差別と圧迫反対、日帝の排外主義、社会排外主義紛糾。

下層労働者、「身障者」、老人等への差別と抑圧反対。

日本帝国主義の差別と分断、排外主義の政治と断乎闘い、プロレタリア被抑圧人民の階級的団結を獲得する。

⑤帝国主義と結託し、帝国主義の危機を救済せんとする、赤旗を掲げて赤旗を裏切る日共、協会派、革マル派等の社会帝国主義の勢力と闘う。

⑥日本プロレタリア党を建設し、赤軍を建軍し、内乱と革命戦争、反帝反米の攻撃的蜂起の陣型を構築する。

(三) 日本帝国主義のプロレタリア、人民への生活破壊、諸権利剥奪攻撃等賃金奴隸制の深まりと闘い、共産主義と労働

。日本資本主義の寄生性と資本主義国際分業から引き起される、海外農産物輸入反対！

。米その他の主要農産物の生産者価格を農民以外のプロ

人民と対立させず政府は保障せよ！

。農業機械・生産者資材その他の独占価格を引き下げよ！

。全ての土地取上げ反対、減反政策反対、出稼ぎ反対、

出稼ぎ者の生活と権利を保障せよ、資本家と政府の離農、農民プロレタリア化政策反対！

。地主や富農、資本家の半プロレタリア、貧農、小農の搾取奪反対！農村プロレタリア、半プロレタリア、貧農は農民委員会、労働組合を組織し、団結しよう！

。大山林地主の山林と原野を農民に解放せよ！

。日帝と独占資本の下請け機関、農協、漁協を、資本家地主やその手先と闘い、プロレタリア的改造を勝ちとろう！

。米軍、自衛隊による漁業資源の制限反対！

。公害による自然と漁業の破壊反対、漁民への完全な保障！

。一切の反動的農漁民政策反対、食えない農漁民の生活を政府は完全に保障せよ！

③その他被搾取・被抑圧人民の生活と権利を守る闘いや重要な生活破壊との闘い。

者人民の闘いを結合させる。

①労働者に対する生活破壊と諸権利剥奪に反対して闘う。
。低賃金反対、大幅賃上げ、残業なしでも食える賃金を！

。労働強化、残業、首切り、合理化反対！長時間労働反対！労働強化の伴なわない週休三日制を！

。職業病や労働災害の絶滅のために資本家と闘う、またこれらの犠牲に対する資本家と国家の完全な保障の獲得！

。失業反対、職よこせ！
。団結権、団体交渉権、ストライキ権などの労働基本権に対する一切の制限反対！

。労働者階級の全ゆる機会と方法を利用した階級的武装の支持と促進！

。女性労働者への差別反対！

。下層労働者の窮状に、政府と自治体は責任をとれ！
下層プロへの資本主義の矛盾の転嫁反対！警察と右翼手配師の下層労働者の暴力支配と断乎闘う！「殺られたら殺り返せ」を実行し、下層労働者が革命の主力軍の一つの重要な能力を開発する。

。その他プロ独綱領で記述した要求を実現するために闘う。労働者階級が被抑圧人民の革命的首領階級たるべく、指導能力を身につけるよう、共産主義と労働運動を結合させる。

②日本帝国主義の農漁民掃滅政策紛糾！

。職人、自営商店主、自営小経営主、自営零細業主等に対する一切の圧迫と収奪反対！

。知識人、文化人、科学者、技術者等に対する言論・思想などの抑圧反対！

。退廃的ブルジョア文化反対！階級闘争の中でプロレタリア世界！日本革命の路線と結びついたプロレタリア的世界文化の創出！

。インフレ反対！高物価反対！重税反対！「公害反対！」社会保険制度の根本的改善、社会発展の功勞者、被搾取人民の老人層への老後の経済的、社会的、政治的な完全な保障、「障害者」や労働災害者の生活の全般的保障！医療制度の根本的改善と拡大！

。プロレタリア以外の被搾取、被抑圧人民には、プロレタリア階級の闘いに自らの闘いを結合せしめるよう指導し反帝反米反社帝のプロ独社会主義革命の統一戦線を実現する。

6 プロレタリア日本・世界革命の基本スローガンとその説明

1. 帝国主義打倒／社会帝国主義打倒／労働者階級の経済的隸従、賃金奴隸制からの完全解放、被抑圧民族、人民の完全解放、世界共産主義社会樹立／世界社会主義社会樹立／世界プロレタリア独裁社会樹立！

2. 第3世界の民族解放、社会主義革命万歳／資本主義

国のプロレタリア社会主義革命万歳！労働者国家の世界

よう！

革命の根拠地化と共産主義継続革命万歳！三プロック革命を世界プロレタリア共産主義革命として結合させよう！

3. 国際帝国主義と社会帝国主義の侵略・抑圧・反革命の

階級危機、戦争を世界革命戦争で打破れ！

4. M・L主義万歳！毛沢東思想断乎支持！社会帝国主義打倒、トロツキズムと毛沢東教条主義を克服し、世界党を建設しよう！

5. 世界党—世界赤軍—反帝反社帝の世界プロ、農民統一戦線の陣型構築を！

6. 日本帝国主義打倒！米帝国主義打倒！社会帝国主義打倒！労働者の経済的隸従、賃金奴隸制からの完全解放！被搾取、被抑圧人民の完全解放！プロ独、社会主義革命貫徹！

7. 日米両帝国主義の侵略・抑圧・反革命と社会帝国主義の反革命・抑圧を社会主義革命戦争で打破れ！

8. M・L主義断乎支持！毛沢東思想断乎支持！反スタートロツキズムと毛沢東教条主義の小ブル革命革命派を変革し、日本プロレタリア党を勝ちとろう！

9.a. 日本帝国主義の侵略と抑圧・反革命・ファシズム・排外主義・差別と分断・生活破壊に抗する反帝反米、反社帝のプロレタリア・被搾取人民の統一戦線を！

9.b. 労働者・被抑圧人民で構成される二種の赤軍を建設し危機の構造を通した、革命の基本戦略を、明示したものであることを。

⑤ 第四是党建設の基礎路線と党建設を明確化したもの。

⑥ 第五は、陣型のスローガン。

⑦ 第六は、プロレタリア日本革命の敵、味方、主力や革命の基本性格を明らかにしたもの。

⑧ 第七は、日本帝国主義の客観的、経済的危機の性格とプロレタリア日本革命の戦略的形成構造を明らかにしたもの。

⑨ 第八は、日本プロ党の基礎路線と党建設を明らかにしたもの。

⑩ 第九は、統一戦線の課題と性格、及び、革命軍の階級性格と種類を明らかにしたもの。

⑪ 我々のプロレタリア日本革命の攻略陣型を明らかにしたもの。

以上10大スローガンが我々の総路線です。

10. 内乱と革命戦争の反帝反米、反社帝の攻撃的峰起の陣型を！

① スローガンに関しては、我々が日本プロレタリア革命は、とりもなおさず、プロレタリア世界革命であるという立場にたっている以上、プロレタリア日本革命のスローガンは、本来世界革命のスローガンであり、又その一部である、と把えられる、従つて、我々の日本プロレタリア革命のスローガンの最初の156には、世界プロレタリア共産主義革命の基本スローガンをあげることにした。

② 第一のスローガンは、世界革命の敵が、帝国主義と社会主義であることを鮮明にし、革命の本隊がプロレタリアであり、その同盟軍が、被抑圧民族と被抑圧人民であることを鮮明にし、この革命の目的が世界共産主義、世界社会主義、世界プロ独の社会であることを鮮明にする必要がある為、プロレタリア世界革命に於ける我々の最も基本的で原則的立場を打出したこと。

③ 第二のスローガンは、第一のプロレタリア世界革命が、地理的、歴史的には如何なる革命によつて構成されているか、又その関連はどんなものか、を明瞭にする観点から、打出されたこと。

④ 第三のスローガンは、国際帝国主義と社会帝国主義の

東拘のアウシユヴィツツ政策の開始

"自殺房"政策を粉碎しよう!

反弾圧戦線の皆さん、労働者、人民、同志、友人、各位の方々へ。

保安処分と差別分断支配の結合、「自殺房」設置の陰謀を暴露し、自殺房徹廃の闘いを訴えます。

私は去る四月四日、何んの理由説明もなく転房させられ「自殺房」に放り込まれ、今「自殺房」徹廃を要求し「自殺房」の反動的ふだつき看守と管理者に厳しく抗議した上で、「看守を侮辱したので責任をとつてもらう」というわけで懲罰にかけらんとしています。

「自殺房」は七三年、森君の死以降、管理のズサンさをなおすといふ名分で設置が開始され、昨年暮くらに完成したのではないかと思うが、四舍一階全部と各倉房ごとに特殊房として二、三設置されています。「自殺房」の内部構造などに関しては、永田君などから詳細な暴露がなされているので、それを参考にしてもらえればいいと思いますが、私達がはつきり確認しておかなければならぬのは、東拘当局の「自殺房」設置に体現される、管理政策の階級的性格です。この点、我々はしつかり認識しておかないと、今後重大な敗北を帰すものと考えます。これは実際に体験してみて、やつと気付いたという点で、自己批判の意味をこめて訴えるものです。

つてだまし、侮辱し、又、肉体的疾患をもつたり、老い先短いことをアゲツライ、何の援助もせず、イビリまくっている。彼らは、階級としての自己の対象化とその決起の道を途ざされた人々ではないか！明らかに、これは資本主義と、特殊には司法権力も東拘当局等の階級抑圧の産物であること、資本主義の危機の反映なのである。かかる「自殺者」の輩出に対して、東拘当局は「自殺者の資質」のせいにし、責任を回避し、『自殺の資質をもつた、自殺容疑者』なる人をデツチ上げ、差別、選別し、これらの人々を、東拘社会の最下層の社会として、特殊に隔離、差別、分断すべく、『自殺防止房』なるものをデツチ上げ、技術的に解決せんとし、また、この房周辺の特殊な反動的監視体制をしき、一日中監視し抜くという対応をとつてている。

③かかる東拘の対応の特質を、より詳しく分析批判してみると、次のような問題が提出されます。

第一は、彼等は、人間を社会的諸関係の総体として把えず、経済的・政治的諸関係から切り離し、収容者を、その『能力』『資質』『倫理性』『協調性』『順応力』『規律性』等をブルジョア生理学や心理学の観点（その典型が血縁関係）から把え、収容者を等級的に差別、選別し創出して、傲然としていること。『自殺容疑者』なる人々は、彼等にとつては『人間のくず』であり、『社会の落伍者』であり、『生きるに値しない人間』であり、『社会問題化しないうちに消滅していくればいい』、棄民対象なのです。このような保安処分の思

不明ですが、理由を追求したが、例の『管理運営上の都合』の一点張りで逃げる——思い当る限り、私が『古株』で、あまり『幅をきかせ過ぎ』で、『論争でも粉碎されるので、懲罰にもかけられず』、『他の収容者にシメンがつかない』わけで、管理体制も強固な『自殺房に放り込んでおけ』というわけだと考えます。

実際、上級管理者と名のつく豚共は、収容者の関心があつまる居房での抗議論争を『宣伝に利用される』と恐れ、収容者や雑役の人のいない、豚共の巣窟＝控室で、ソファにもたれかかってやろうとするわけです。この連中は、私が姓名の表明を要求したのに、社会的糾弾を恐れ、ビビッてしまい、逃げてしまうことを常としています。

② 東拘での自殺とは何か。自殺者の増加は、六〇年代後半以降、七〇年代にかけて増加しているが、彼等『犯罪者』にして『自殺者』と呼ばれる人々は、日本資本主義の強蓄積＝高成長とその破綻の下で、ブルジョアジーに搾取・抑圧・奴隸され、その犠牲となつた労働者・農民・零落した小ブルジア等、勤労人民であり、或いは、これに反抗した革命家たちであった。これをブルジョアジもどその手先どもが死刑や、無期、長期拘束の無道な厳罰攻撃をかけたり、家族や友人、その他の社会関係から切断し、『社会からおまえは見放されてしまつている』とか『社会の落伍者』だとかのデータラメなイデオロギーをも

想でもつて、東拘の行政が開始されたとしているのです。ブルジョアジーと東拘は、一体どこで尊大にも、ブルジョア裁判所さえやれない、労働者人民個人の資質・運命を察し、決定する権限や力を与えられたのか？ まさに、七〇年代なし崩しファシズムは、ブルジョア司法を越えて、東拘に於て、先行的に実現され始めているのです。

第二に、このような保安処分の『自殺房』政策は、収容者を分断し、東拘収容者社会の中に、特殊社会を生み出し、収容者の等級化を促進させ、収容者を分断させ、下層看守層も含めて収容者を堕落させ、差別と分断を推進してゆくこと。第三は、このような性格であるが故に、『自殺房』は、ただ、技術的・物理的に自殺の条件、方法をなくす一点に向け、全く非人間的に、収容者の日常生活の便を一切無視して設計されていること。陽ざしが入り込まないよう、窓が半分塞がれ、室内は暗く――ブルジョア生理学では、暗くしている方が気分が落ち着くとも判断したからか？ ――不健康を促進し、入口のトピラすらくり抜かれ、外から監視でき、収容者が首をつたり、頭をぶつけたりできないように、室内に堅固な金属性の突起物や、鋭角的なカド、ひつかけ材が一切ないよう、全て取り払われるか、軟材でおおつてある。この為に、洗濯物を干す為のヒモの突起棒がなく、乾燥はいちいち外に依頼しなければならず、洗面台の上下の棚がなくなり、洗面用具や洗濯用具は離れた所に置かなければな

らず全く不便なこと。

第四は、収容者を監視し、かつ、収容者の正当な反抗を暴力的に抑圧する為に、特に、東拘の最反動右翼の、人数も他の舍房より少し多い、專制的な出世欲に燃えた係長とか区長、下級看守とかで構成される、指揮系統、監視管理体制がつくられ、一日中全ゆる方策を通して、日常生活の内面まで含んで監視していること。書き込んだノートや便箋を、やたらと無制限に回収し、点検し、手紙類をより長時間検閲し、また、学習用ノートに日付けを書き込み、日記風にしたら駄目だ”とか、”写真は十枚以内だ”とか、”公判日程を装備の暦に書き込むな！”とか、無道なことを強制したりすること。要は、生きながら収容者を死者にさせるわけです。

第五に、これはブルジョア民主主義の一環としての懲罰政策の強化とは根本的に性質が違うこと。ブルジョア民主主義の懲罰房攻撃から、なし崩しファシズムのアウシュヴィッツ政策への質的転換であり、”懲罰房入り”と”自殺防止房入り”とは質が根本的に違うこと。我々はこのことを何よりもつかりと理解すべきです。

かかる、なし崩しファシズムのアウシュヴィッツ政策に抗議した私に對して、反動係長一区長一担当官共は、無道な”懲罰”攻撃をかけ、虐殺せんとしてきたわけですが、私は事態の重大さを理解したが故に、”懲罰”攻撃をはねつけ、断乎”自殺房”徹底の闘いを展開してゆくつもりです。反弾虐戦

岩越氏の7・15 H J闘争を断乎支持する！

この闘いは、日帝の構造危機の下で、犠牲になり、搾取・収奪・抑圧され、行倒れの危機にすらさらされている、全下層プロレタリアの、日帝に対する、やむにやまれぬ糾弾の闘いであったこと。また、日米両帝国主義と朴カイライの下に、虐殺されかかっているが、英雄的に抗戦している朝鮮・労働者・学生・人民や、朝鮮労働党の闘いを支持し、連帯する下層プロレタリアのプロレタリア国際主義の精神を表明したものです。かつ、これまでの赤軍派の闘いを支持し、盛りたてんとしている労働者人民の赤軍派支援と激励の闘いでもあったと考えます。

私は、赤軍派を代表し、最大の感激をもって、岩越氏のこの道理ある闘いを支持・連帯し、70年淀号闘争の革命的戦術を引き継いだ、赤軍派奪還の闘いを推進してくれたことを光栄に思い、感謝するものです。

既成政黨の参院選の馬鹿騒ぎや、福田辞任劇のドタバタに較べ、何とこの闘いは眞実を語ることに於て、光を放っています。奸智にたけた、岩越氏を侮辱し、「ファシスト」の「無知な行為」、「兇悪犯」等の攻撃も、連赤問題のマスコミ攻勢の試

線をはじめとする全ゆる革命勢力は團結し、この攻撃の反動的意図をしつかりと認識しなおし、この攻撃を粉碎してゆこうではありませんか。

(一九七四年四月)

練をかいぐった労働者人民には通用しないのだ。「読売」等、ブル新よ、これ以上、岩越氏を侮辱するな！「読売」等、ブル新は「労務者」という下層プロを差別・侮辱する用語を使用するな！

下層労働者は、たくましく、雑草の如く生き、自殺なんて敗北主義とは無縁なのだ！下層労働者には、苦しい生活体験から学びとった「やられたら、やり返せ！」という大鉄則があるのだ。

岩越氏の闘いは、決して敗北していない。彼の闘いの政治的意図こそ、我々は精力的に宣伝し、広め、また、我々は今後プロレタリア党建設の闘いを成功させ、その党の下にプロレタリア人民を組織し、この成果の上に組織された赤軍によって、計画的戦術として武闘を闘い、氏の闘いを立派に引き継がねばならない。

氏よ！早く東拘にやってこい。任務を果した尊敬すべき人には、新しい沢山の友人が首を長くして待っているでしょう。ここで、バッチャリ、マルクス・リーニン主義を学び、革命思想と党建設・戦略・戦術を学び、再度プロレタリア解放の大業に邁進しようではないか。きっと、ここで闘いは、貴方の気に入り、貴方の人生にとってもっとも素晴らしい時期になるでしょう。

御多聞にもれず、またもや東拘は、貴方の闘いを凍結すべく、真黒に塗りつぶす愚挙にててきた。だが、我々は直ちに

はね返す！

7・15 H J 闘争万歳！ 岩越氏万歳！

マスコミのデマ宣伝と真実陰蔽、紛糾、下層プロは闘うぞ！
朝鮮人民万歳！ 赤軍派を再建し、プロレタリア革命戦争
を闘うぞ！

七月一八日 塩見孝也

本集が諸般の事情において、余儀なく予定された刊行
期日より大幅な遅れをもつて読者諸君のもとに届けられ
ることを、まずもってお詫びしておきたい。

本論集『論叢』No.8は、前集、および前々集につづく
「一向過渡期世界論の防衛と発展のために」の(3)、△情
勢分析▽、「七〇年代中期国際情勢の基本的動向と世界
革命の展望」と、論文「プロレタリア日本革命の性格・
その基本的問題と我々の綱領」を併載したものとして刊
行される。△序論▽および△前史▽として刊行された
『論叢』No.6 No.7と併せ読まれたい。

次集『論叢』No.9は、綱領問題特集として、現在その
作業が進行している。11月中旬には刊行の予定である。

印刷者による後註

塙見孝也論叢★1 定価二五〇円

同盟の革命的再建のために(その1)

ある同志への手紙I
ある同志への手紙II

同志高原を批判す

塙見孝也論叢★2 定価二五〇円

同盟の革命的再建のために(その2)

連合赤軍敗北の正しい総括の下、プロレタリア
革命主義の旗を高く掲げてさらに前進しよう！

塙見孝也論叢★3 定価三〇〇円

トロツキズム・毛沢東教条主義を止揚し、
プロレタリア革命綱領を獲得するために

塙見孝也論叢★4 定価四八〇円

連赤の責任回避と小ブル民族主義＝生産力主義を
批判し、マルクス・レーニン主義の正しい継承と
發展の実践的獲得のために

塙見孝也論叢★5 定価二五〇円

共産同(RG)批判への基本視点・メモ

革左(神)派の坂口君を批判す 他
ブルジョア・マスコミの無面操かづ

小ブル自由主義的使用に反対／ 坂東国男

塙見孝也論叢★6 定価四五〇円

一向過渡期世界論の防衛と發展のために(1)＝序論

塙見孝也論叢★7 定価三〇〇円

一向過渡期世界論の防衛と發展のために(2)＝前史

ゲバラ・カストロ路線とわれわれ

現代過渡期世界と世界革命の展望

塙見孝也論叢★9
病院問題特集

11月刊行予定

定価380円(税70)

連絡先=東京都葛飾区新小岩1の9の7 あけみ荘2号室 塙見方「論叢」係
精誠社発行1974年10月28日 発行者・塙見孝也 PIA出版・販促出版